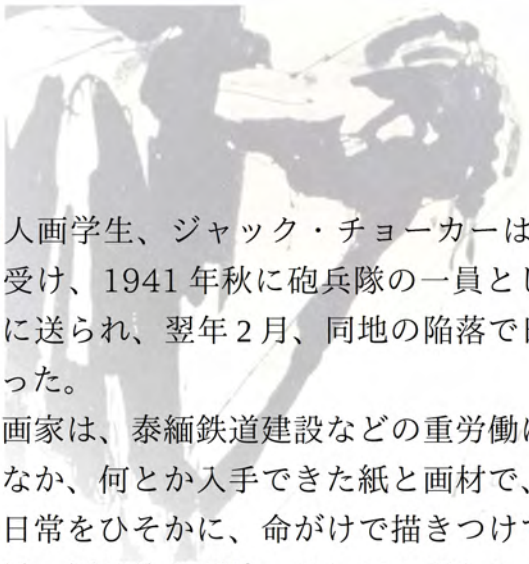
絵筆が記録した
日本軍捕虜収容所

編者：小菅信子

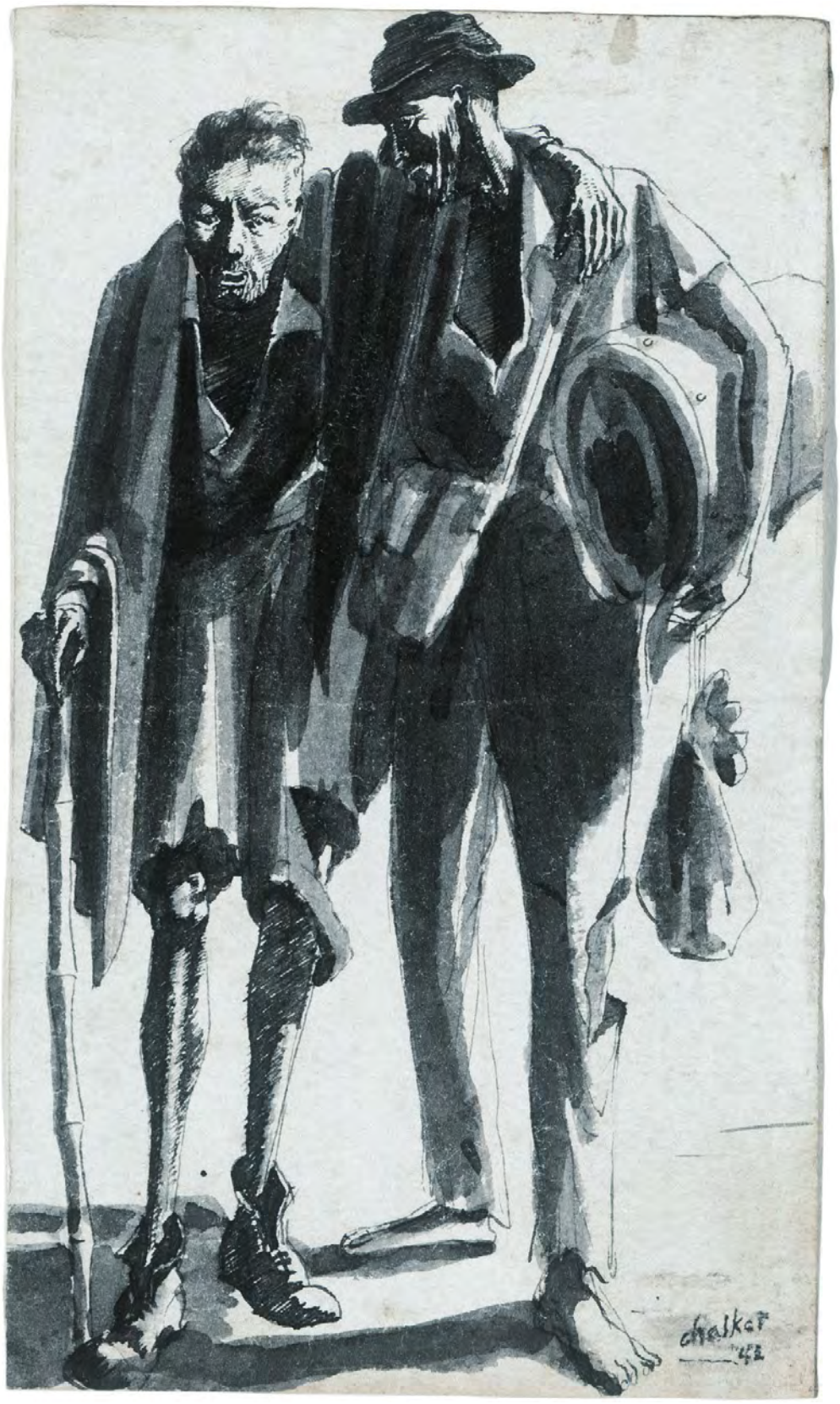


英国人画学生、ジャック・チョーカーは、21歳で召集を受け、1941年秋に砲兵隊の一員としてシンガポールに送られ、翌年2月、同地の陥落で日本軍の捕虜となった。

若き画家は、泰緬鉄道建設などの重労働に従事させられるなか、何とか入手できた紙と画材で、捕虜収容所での日常をひそかに、命がけで描きつけていた。過酷な労働、極限的な環境、そして人間たちの創意工夫……彼らが見、体験した世界は、どのようなものだったのか。

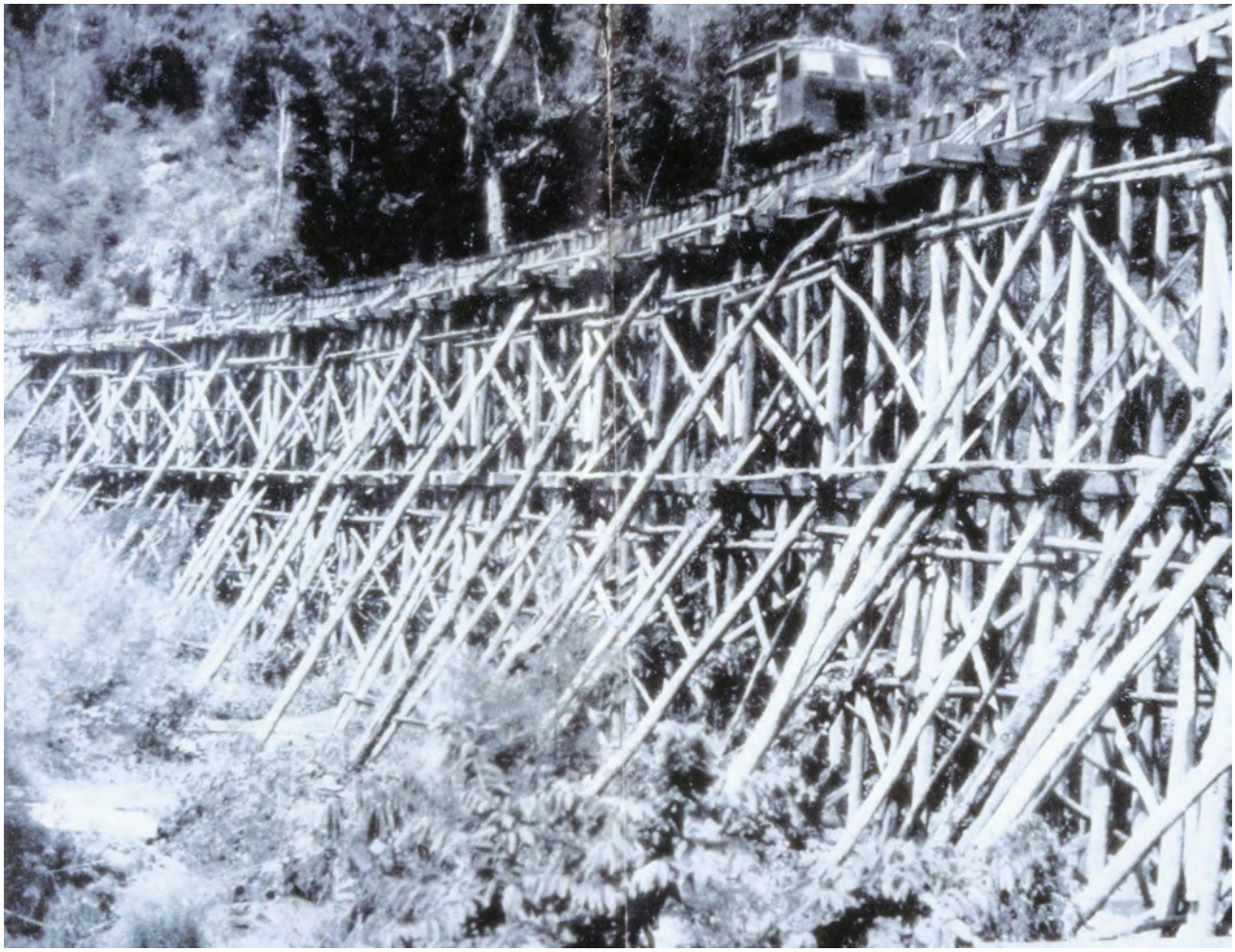
戦後、画家・美術教育家として高く評価されることになるチョーカーの記録画が、収容所生活の実態を生々しく、またいきいきと、今に伝える。

Copyright © 2015 Nobuko Kosuge. All Rights Reserved
本文書の一部を転載利用する際には、編者への転載許可申請が必要です。



労働を強いられた捕虜たち。カンユー、１９４２年。

マラヤの小さな村。シンガポール、１９４２年。



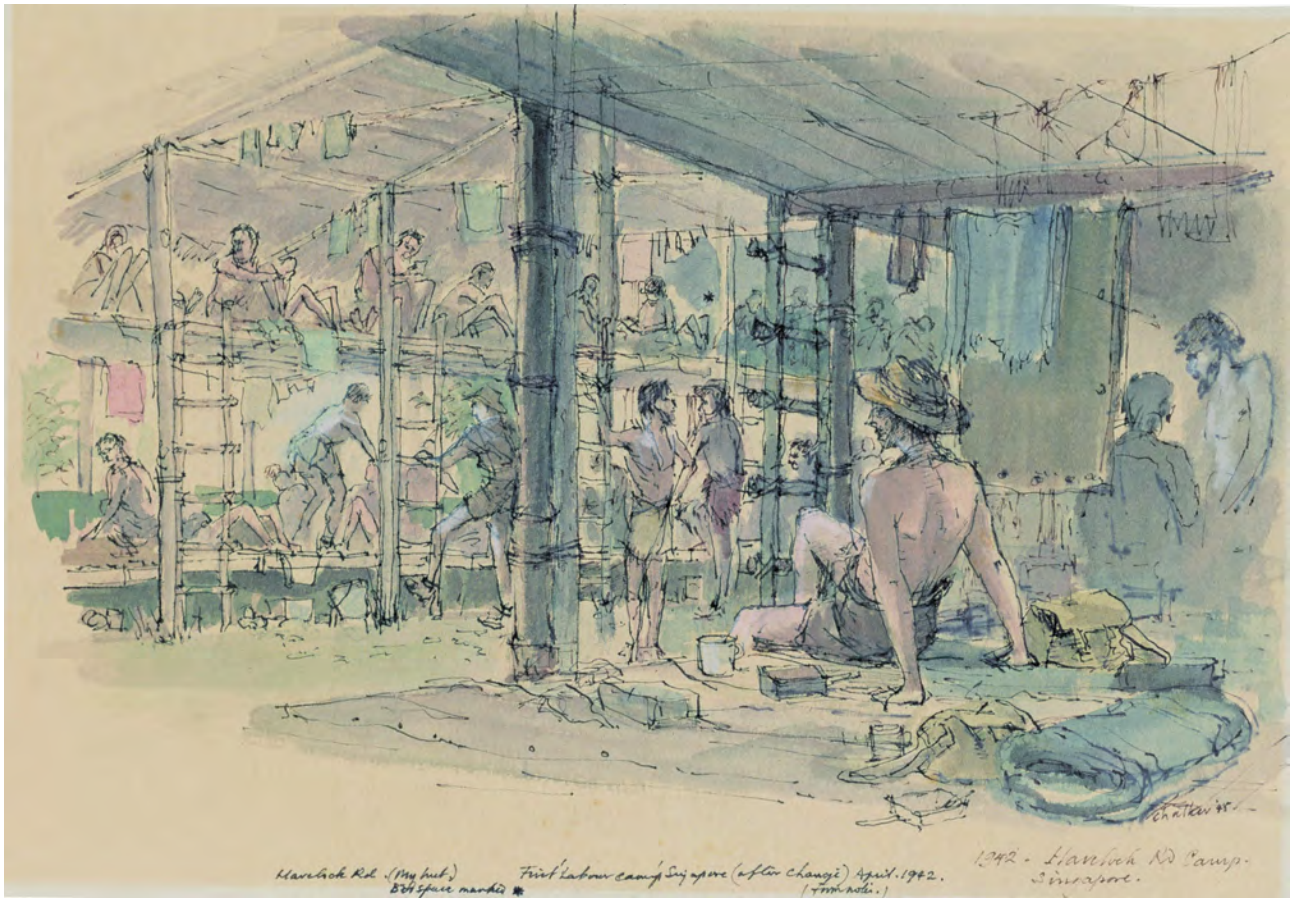
カンユーーヒントク間に架かる橋の一つ。

泰緬鉄道の南端でメークローン川に架かる橋。
１９４５年２月と６月の爆撃で橋の一部が破壊されたが、
捕虜たちの手で修復された。

泰緬鉄道のために作られた切通しの典型。ヒントク。
１９８７年に再訪したチョーカーが撮影した写真。

ゴム農園に置かれた２５ポンド野砲。
シンガポール、１９４２年。

中華街。
シンガポール、１９４２年。

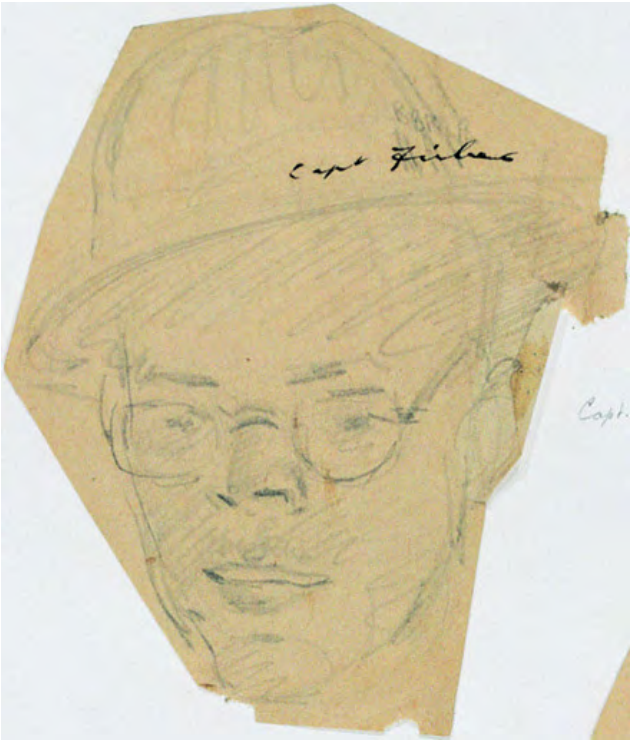


宿泊棟の内部。
一人あたり約９０センチ幅のスペースが与えられ、
チョーカーは上段だった。
南京虫とシラミとの共存生活だった。
ハヴロック・ロード、１９４２年。

ジャングルで花を咲かせる背の高い木。
カンユー、１９４２年。

オランダ植民地軍とイギリス人将校。
シンガポール、１９４２年。
（次ページも）

オランダ植民地軍とイギリス人将校。
シンガポール、１９４２年。
（前ページも）



収容所の様子を古い紙切れに
手早くスケッチした作品。
一つは１９４２年にカンユーで、
その他は翌年チュンカイで描いた。
（次ページも）

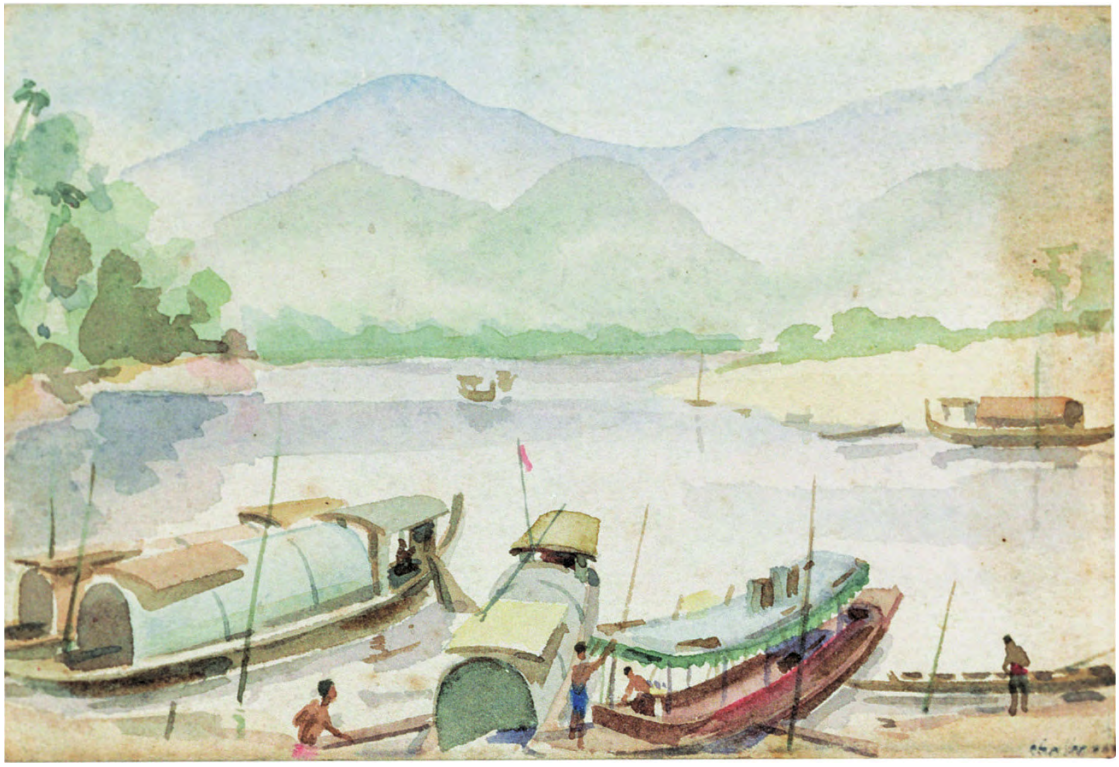
収容所の様子を古い紙切れに
手早くスケッチした作品。
一つは１９４２年にカンユーで、
その他は翌年チュンカイで描いた。
（前ページ、前々ページも）

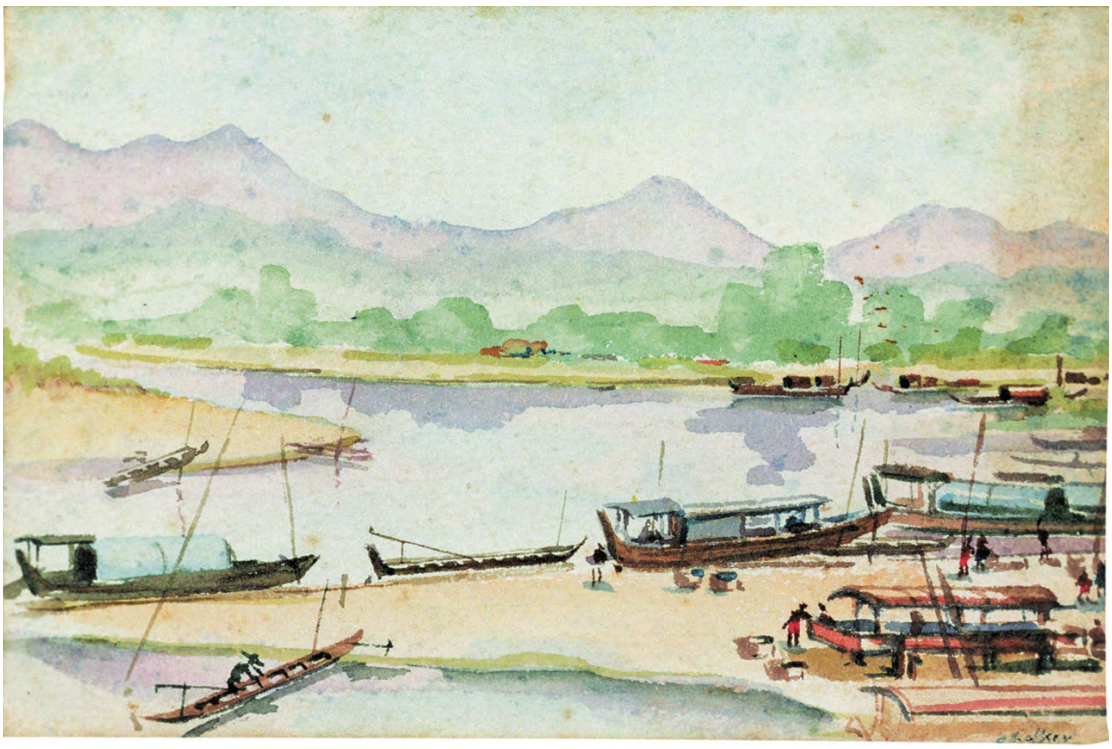
日本人のものを盗んだ捕虜への体罰。
木の切り株に手を載せて骨が砕けるまで打たれた。
シンガポール、１９４２年。

シンガポールからタイのバーンポーンまでの、
５日間にわたる鉄道の旅。
１台の貨車に３２人ずつ乗せられ、
座れるスペースはほとんどなかった。
多くの捕虜はすでにマラリアや赤痢を発病しており、
悲惨な経験だった。
１９４２年。

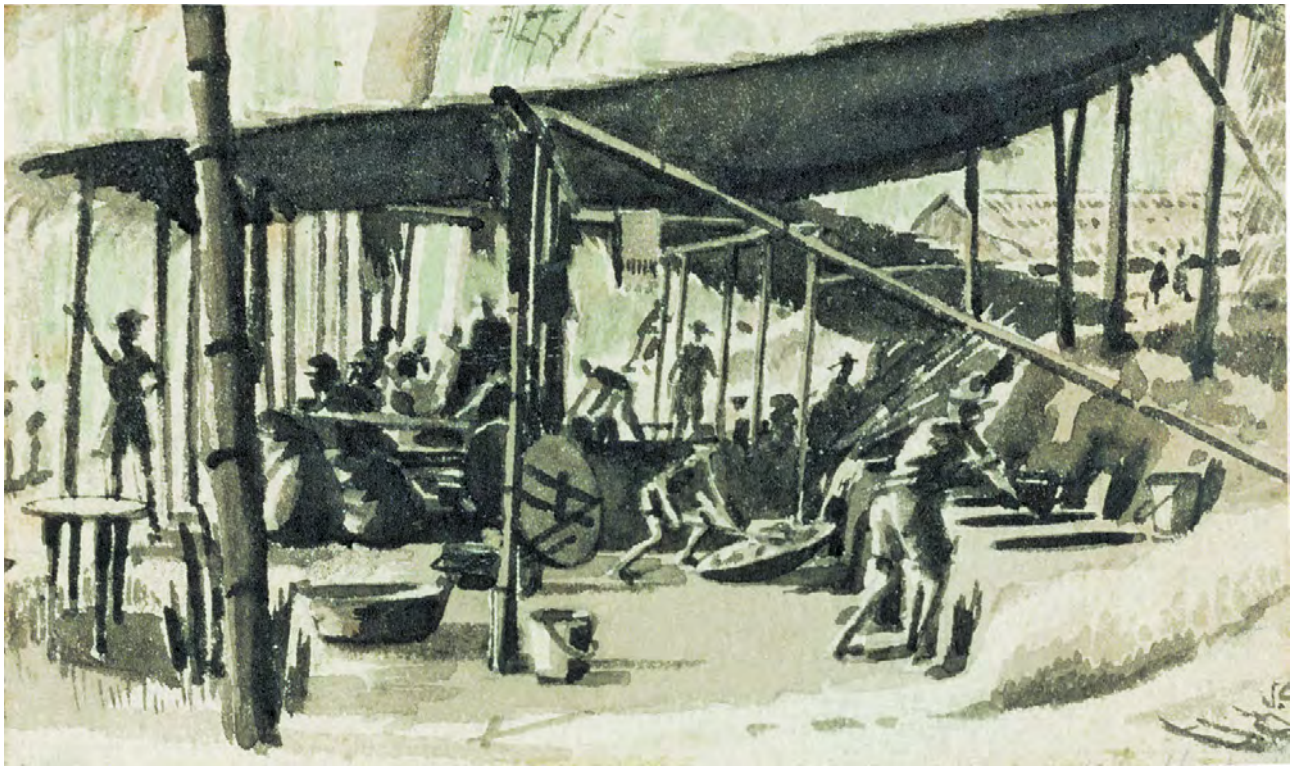
バーンポーンから奥地カンユーに向かう
ジャングルでの行進。
疲れと食糧不足、モンスーンの影響で、
必要最低限のものしか携行できなかった。
１９４２年。

カンユー、墓地から北を眺めた風景。
鉄道線路が、収容所より６００メートルも高い丘の斜面、
絵の右上に延びている。
手前は友人たちの墓地で、
誰の墓であるかのメモ書きがある。
カンユーに移り間もない１９４２年に下絵を描き、
解放後バンコクで完成させた。





カーンチャナブリーの川を行き交う舟。
ここは、クウェーノーイ川とメークローン川の合流点。
チュンカイで制作、１９４２年。



炊事棟。カンユー、１９４２年。

マングローブの沼に架けられた橋。
ハヴロック・ロード、１９４２年。

西に川がある丘の斜面から見た炊事棟。
手前にオーストラリア人収容所がある。
カンユー、１９４２年。

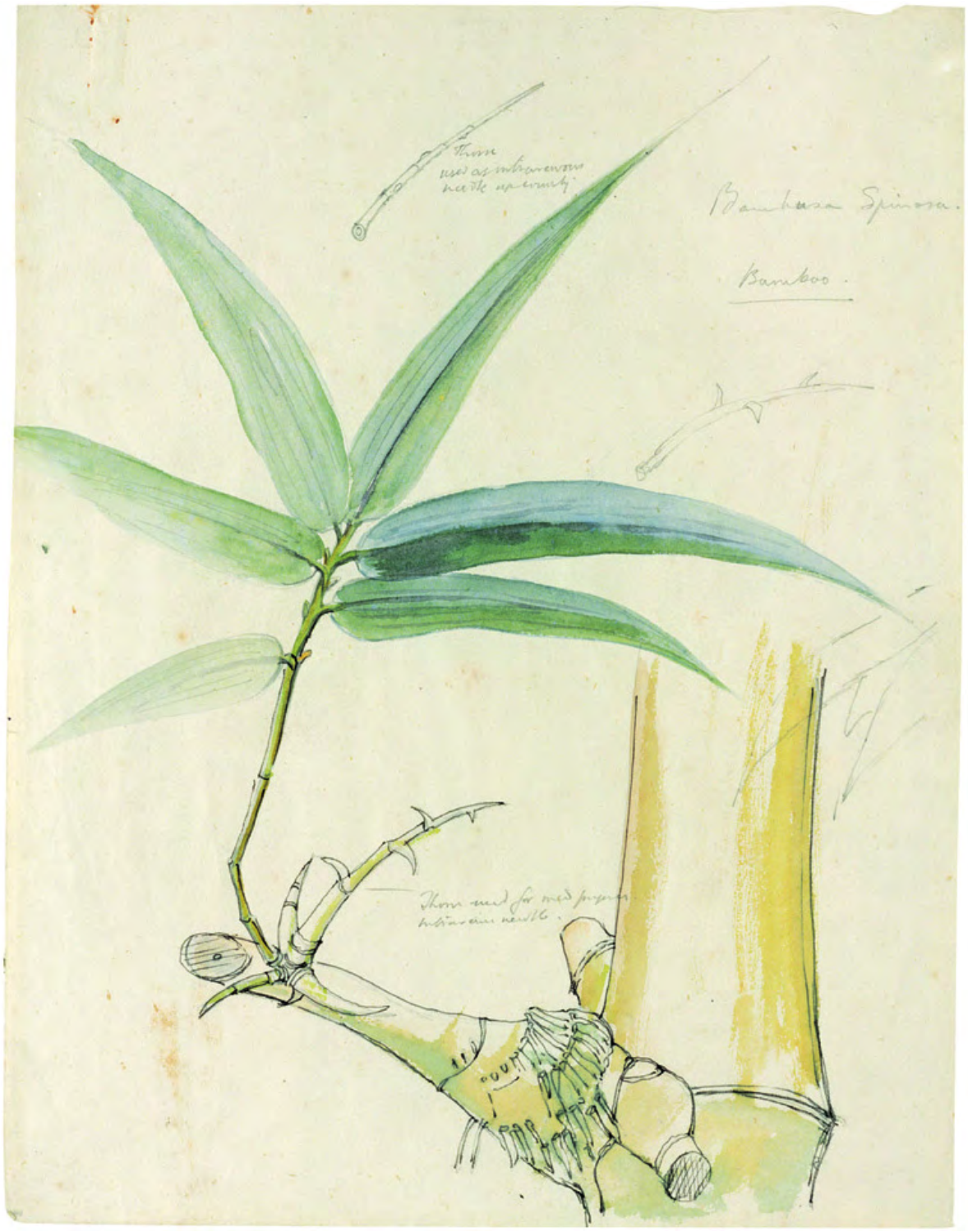
収容所付近は、チークとカポックの木だけを残し、
ジャングルを伐採した。
手前が、チョーカーの宿泊棟。
カンユー、１９４２年。

オーストラリア人捕虜。ヒントク、１９４３年。

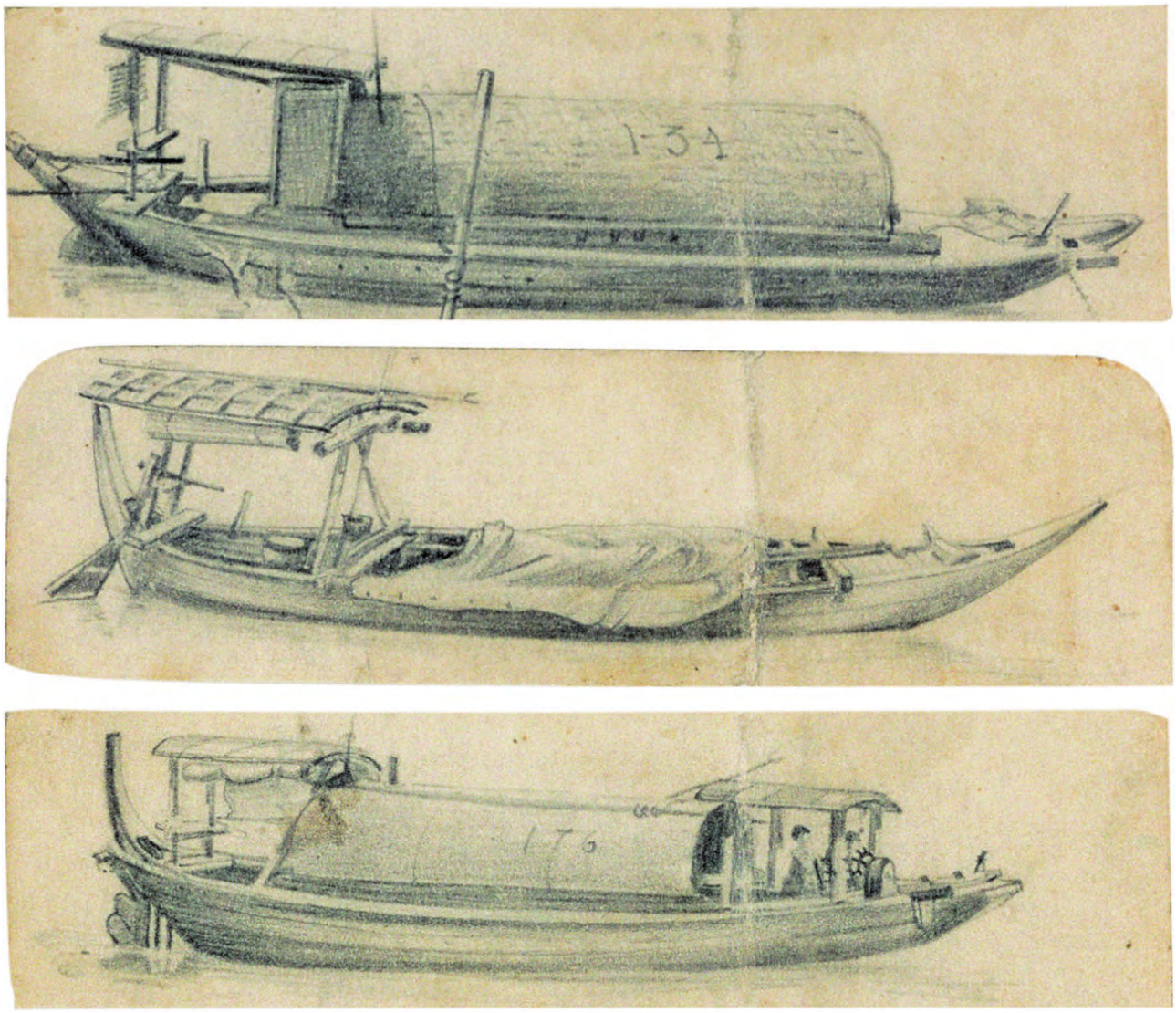
石を持ち上げたまま立ち続ける「石持ちの罰」。
鉄道敷設作業で、働きが悪い捕虜に対して
日本兵や朝鮮人の監視員が頻繁に与えた。
１９４３年。

小さなランが奥地ジャングルに育ち、
至るところに咲いていた。
カンユー、１９４３年。

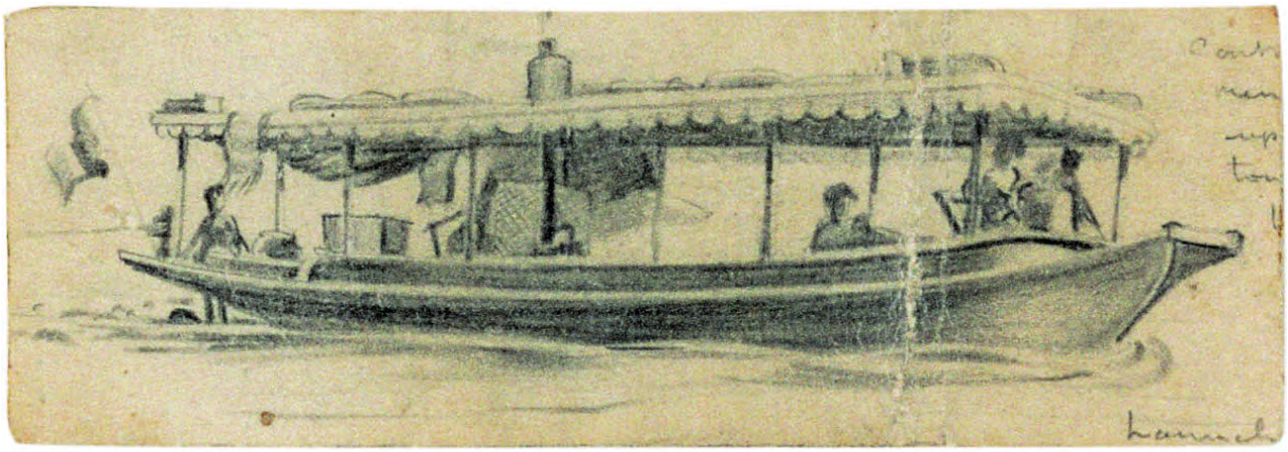
収容所付近のジャングルに咲くハイビスカス。
カンユー、１９４３年。



タイの竹。１５～１８メートルにも育つタイの竹は、
図のような長い棘に覆われている。
ジャングルの巨大な茂みを伐採するときに、
この長い棘が刺さって大けがをすることが度々あった。
しかし、奥地では試験的にこの棘を
静脈注射の針として使ってみたりした。

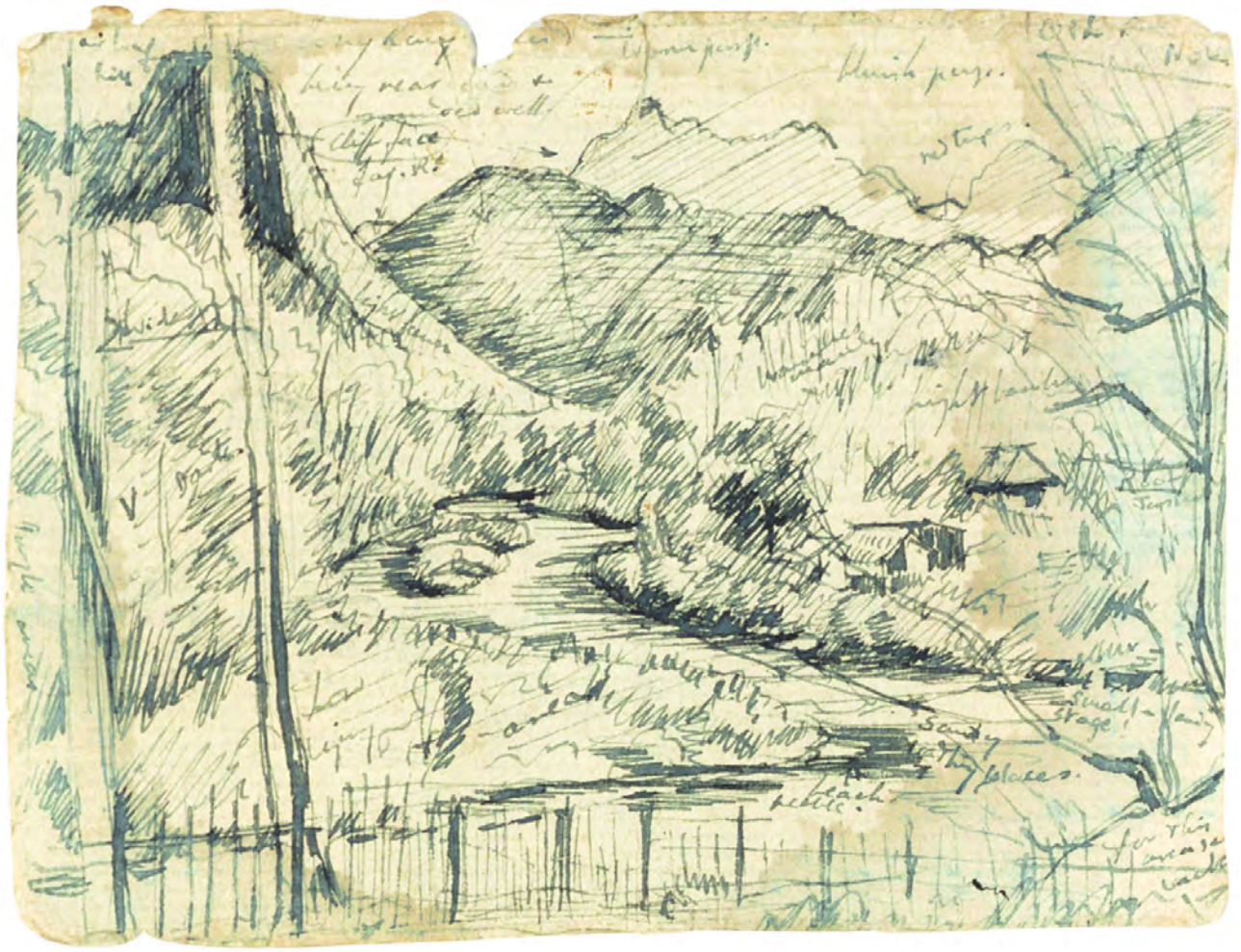


クウェーノーイ川の舟。
作品は隠しやすいように小片に切った。
カンユー、１９４２年。（次ページも）



クウェーノーイ川の舟。
作品は隠しやすいように小片に切った。
カンユー、１９４２年。
（前ページも）

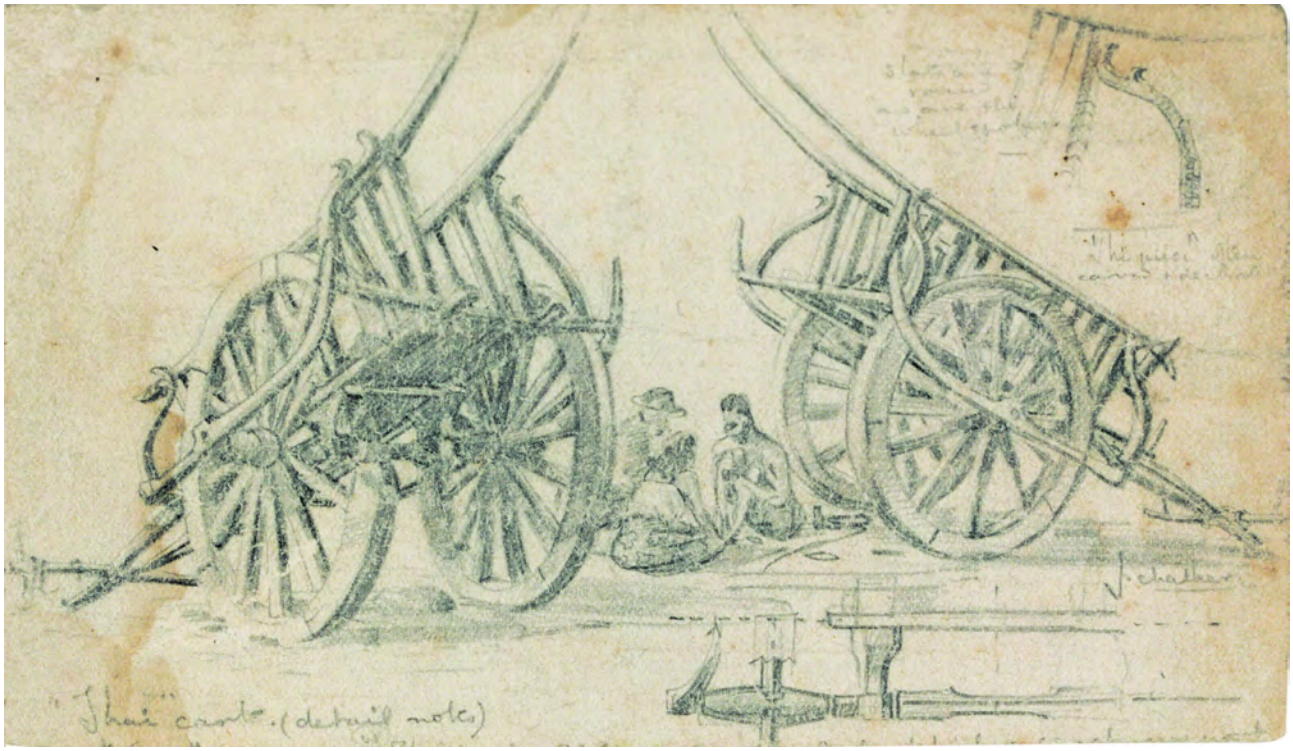
ジャングルの墓地（手前）から川に臨む風景。
小さな竹製の祭壇は、礼拝に使われた。
本当に美しい情景だった。
カンユー、１９４２年。



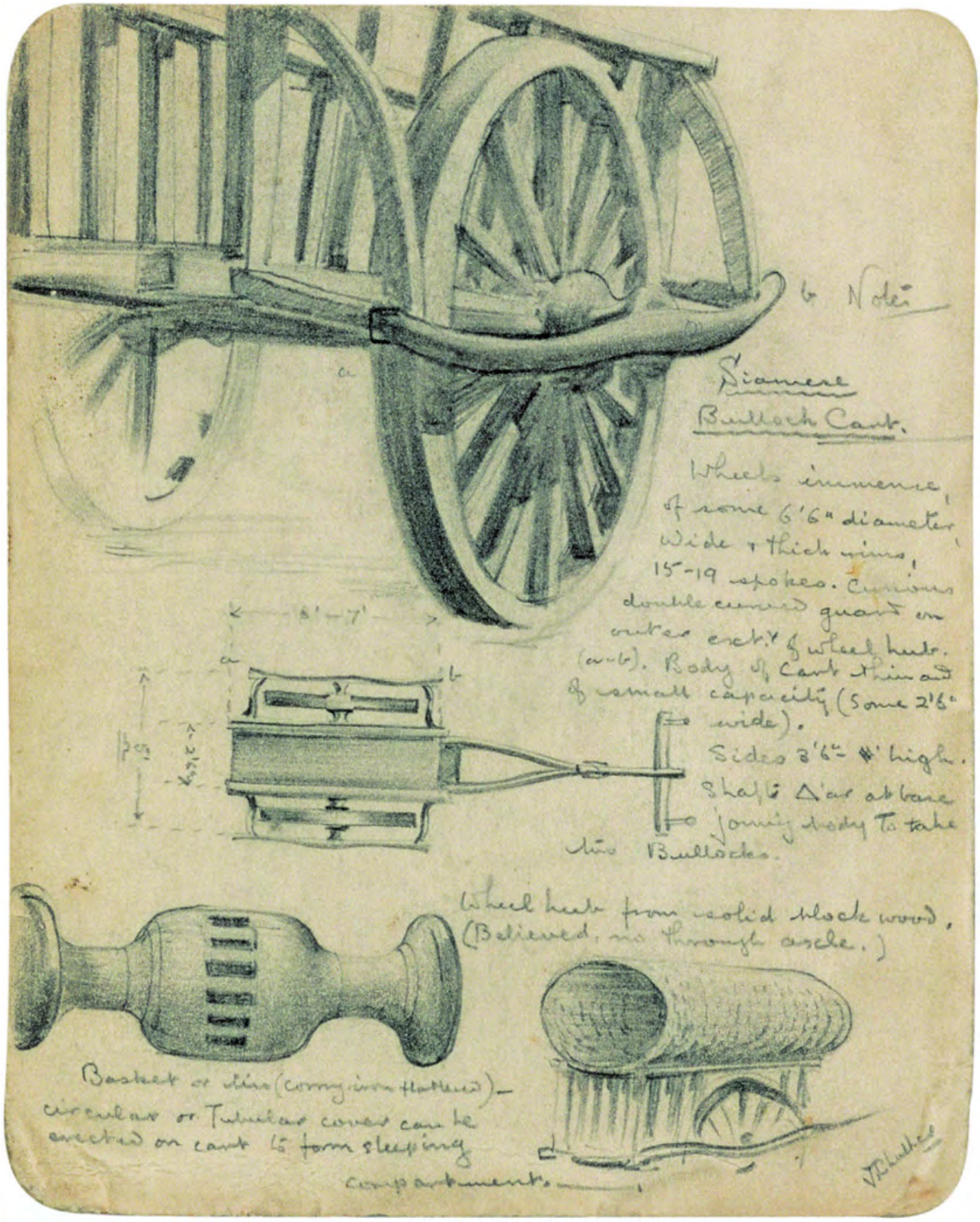
ジャングルの墓地（手前）から川に臨む風景。
カンユー、１９４２年。

臨時の野戦簡易便所「ラトリーン」。
ジャングルにある深い穴に竹が渡してある。
やせ衰えた捕虜が落ちてれないように、
穴はできるだけ小さく四角く掘った。
モンスーンの雨、大量の排泄物とウジムシは、
すさまじい環境を生み出し、素足のときは最悪だった。
カンユー、１９４２年。

カンユーのジャングルで、
鉄道敷設のため、土手を整地する捕虜たち。
１９４２－４３年。

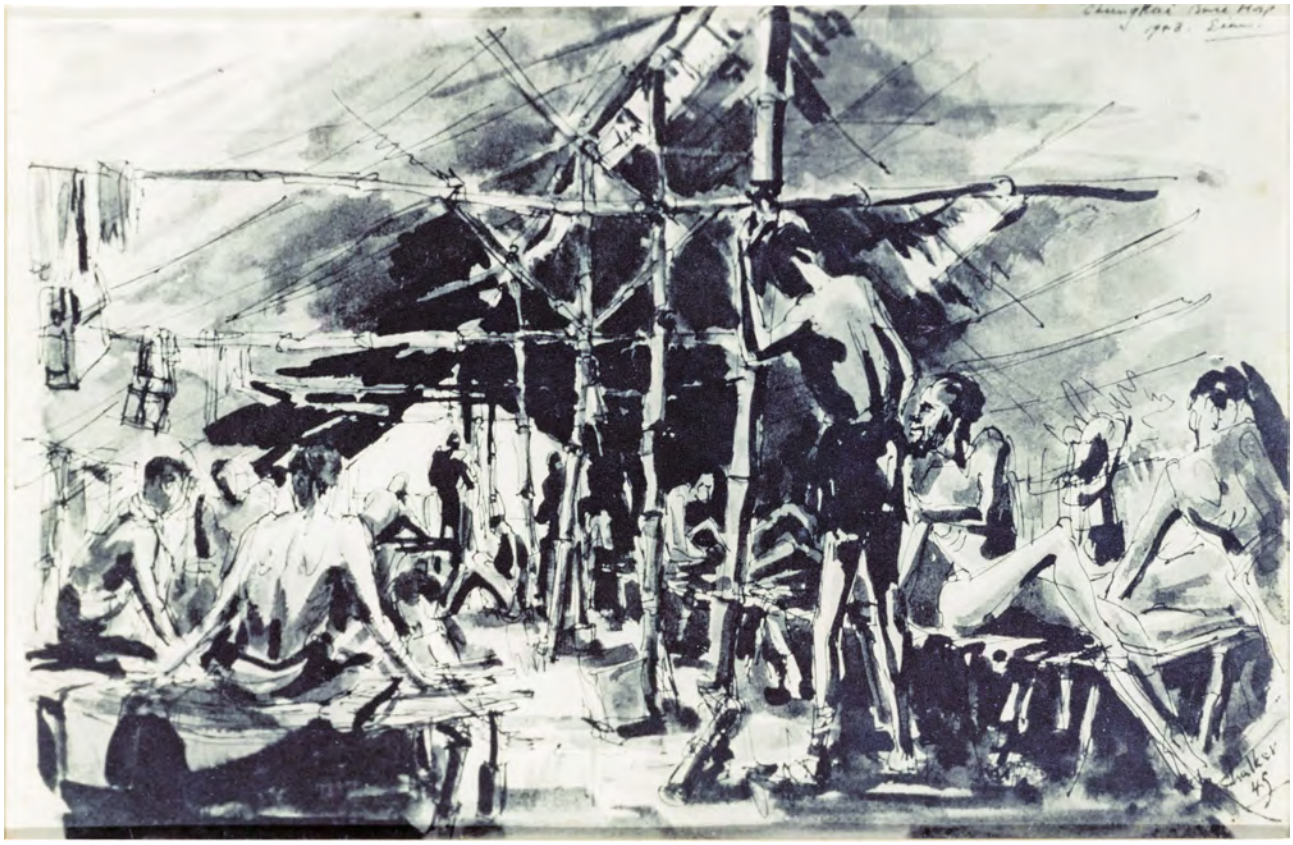


タイの牛車。その構造と部分図。
カンユー、１９４２年。
（次ページも）



タイの牛車。その構造と部分図 。
カンユー、１９４２年。（前ページも）

奥地に育つ野生のトケイソウ。
１９４２年。

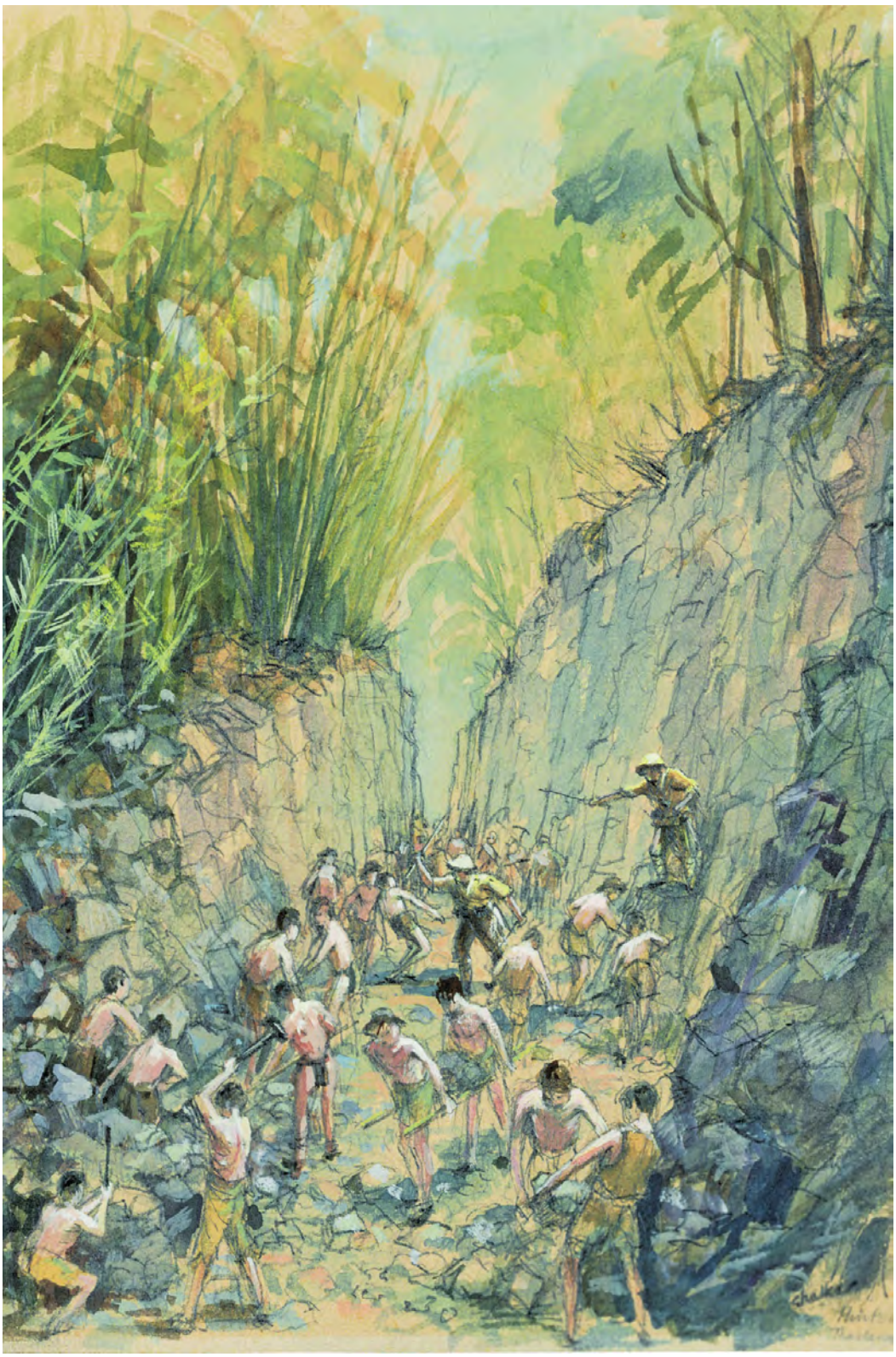


チョーカーの宿泊棟。
チュンカイ、１９４３年。

朝鮮人監視員。

１９４３年にチュンカイで作成したメモ書きから。

日本軍陸軍少尉と朝鮮人監視員。
チュンカイ、１９４２年。



悪名高いヒントクの切通し現場で
労働するオーストラリア人捕虜たち。
１９４２－４３年。

収容所の人びと。
チュンカイ、１９４３年。

コレラ患者用テントの一つ。
泥と糞便のぬかるみに横たわる患者たち。
脱水症状を緩和するために応急に用意された
点滴装置が見える。
瓶と聴診器のゴムチューブを使用していた。
ヒントク、１９４２年。

コレラ病棟。
雨季はまさに沼となり、患者は竹で支えられた、
日本製の腐ったテントで覆われているだけだった。
ヒントク、１９４２年。

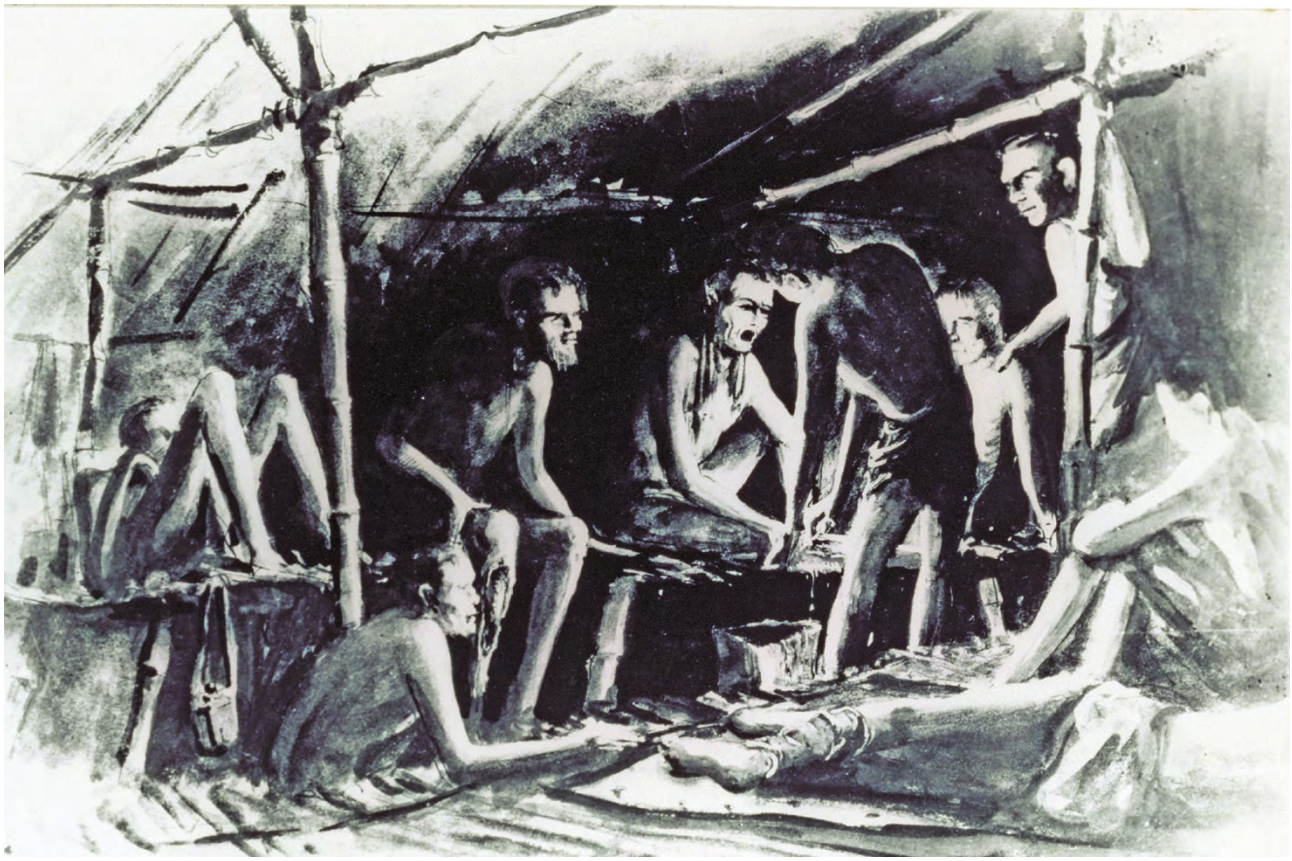
赤痢病棟。
手前はチョーカーの就寝スペース。
かがみ込む赤痢患者が描かれている。
チュンカイ、１９４３年。

病棟手術室。緑色の蚊帳に覆われた竹造りの手術室。
正面のダンロップ医師と、
背を向けているマルコヴィッツ医師が、
大骨切断手術を執刀している。
戦後になって次ページのスケッチを元に作成。
チュンカイ。

病棟手術室のスケッチ。
チュンカイ、１９４３年。

舟から病人や死体を降ろす様子。
１６日間も乗ったままの者もあり、
そういう者たちには生存者はほとんどいなかった。
チュンカイ、１９４３年。

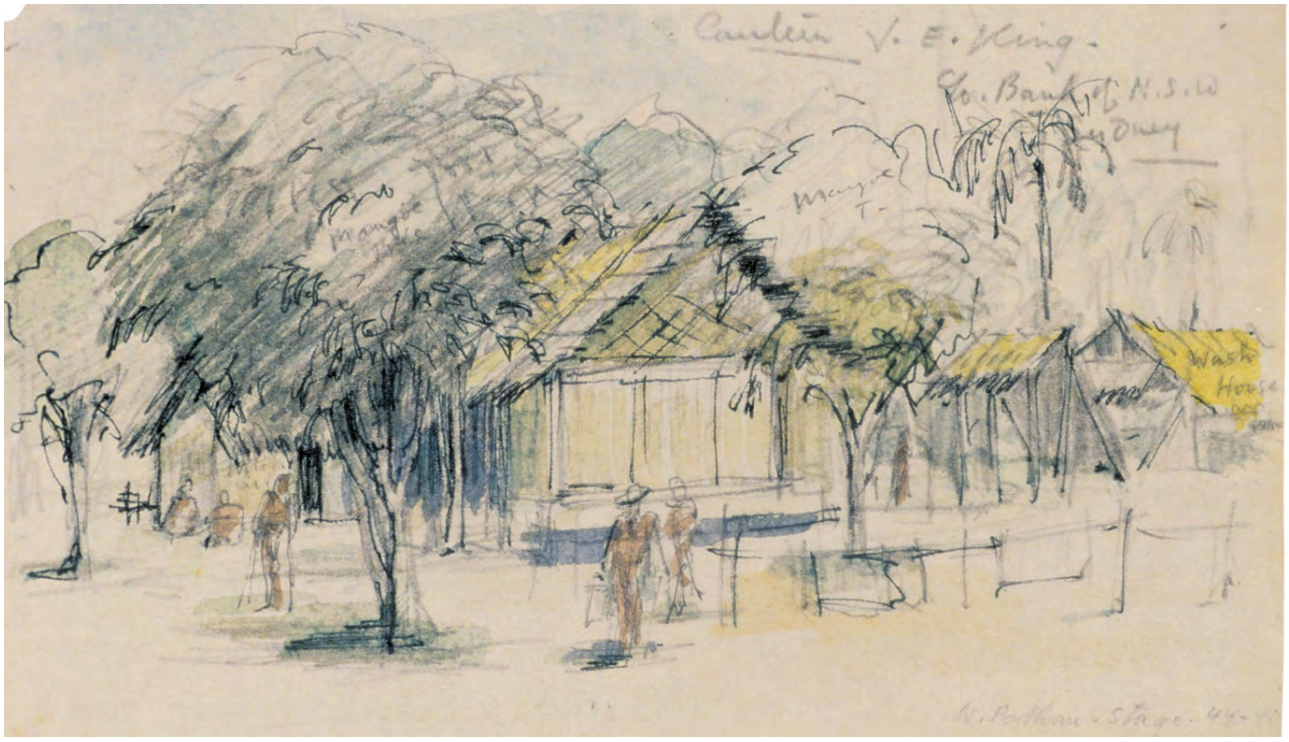
マルコヴィッツ大尉。カナダ人で、
チュンカイとナコーンパトム担当の経験豊富な外科医。
収容所で、脚の切断手術を最初に執刀し、
のちに成功率の高い直接輸血法を考え出した。
チュンカイ、１９４３年。



潰瘍病棟の一部。膿とウジムシを、
スプーン、はさみ、スペンサーウェルズ鉗子で、
麻酔薬もない状態で取り除いた。
チュンカイ、１９４３年。

劇場と観客席。
チュンカイ、１９４３年。

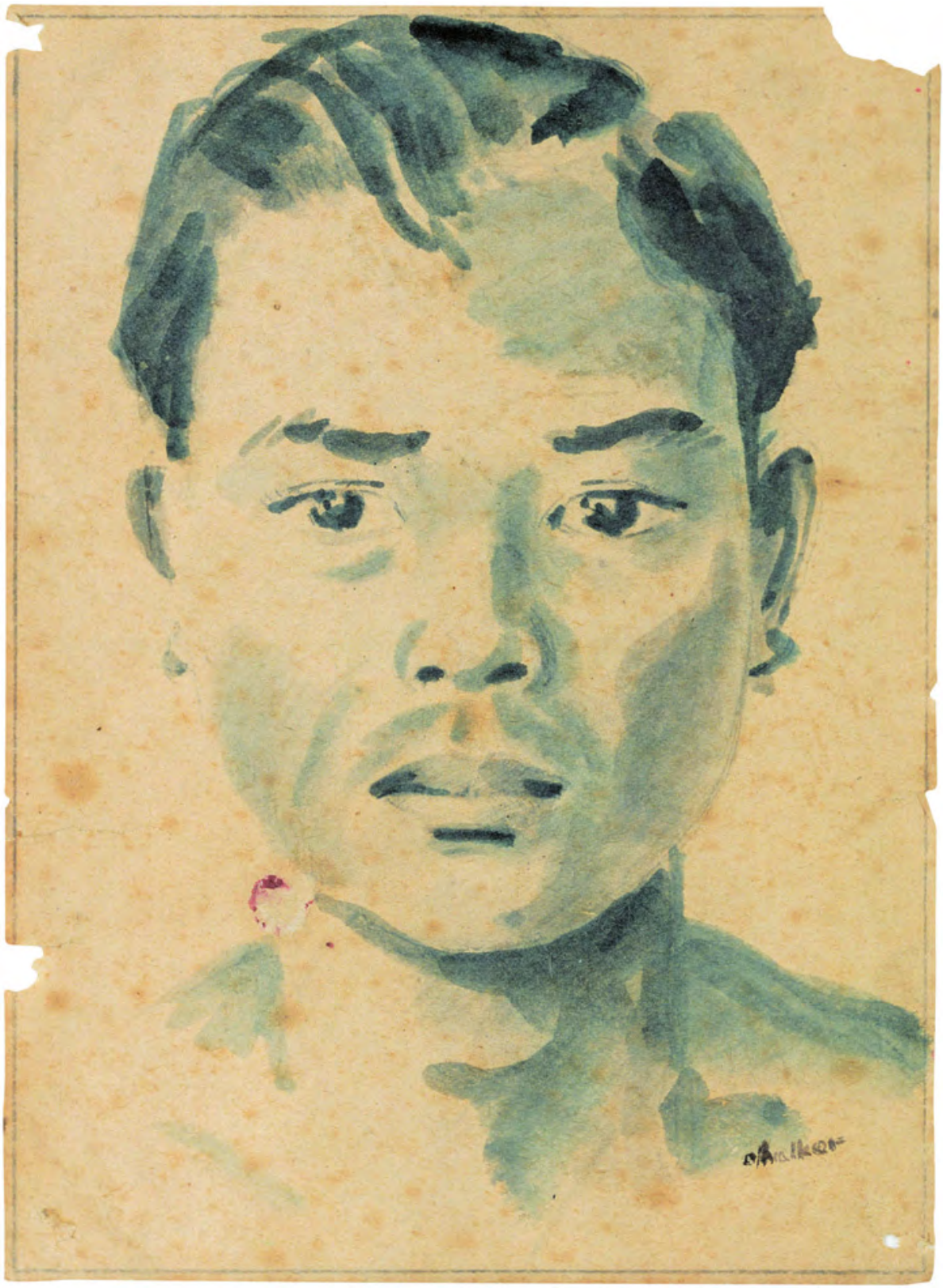
捕虜のなかには、さまざまな特技を持ち合わせた人びとがいて、手に入る材料で楽器や衣装、道具を作り、娯楽を提供していた。１９４３年末、捕虜たちは日本軍から劇場を作る許可を得て、舞台と楽屋、観客席から成るこの設備を整えた。



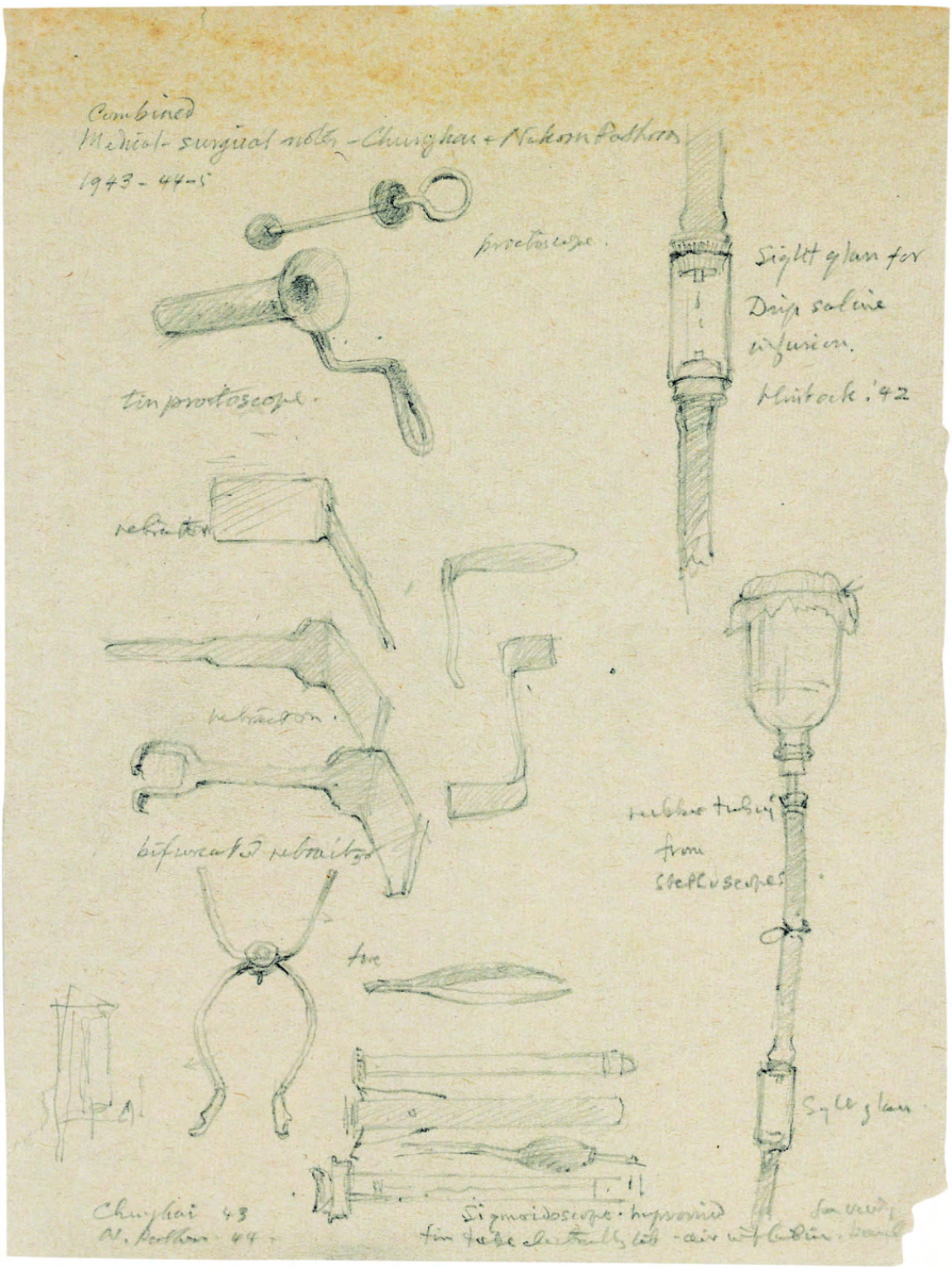
劇場。
ナコーンパトム、１９４４年。

チュンカイから移動した先のナコーンパトムでも、捕虜たちは劇場設置の許可を日本軍から与えられ、チュンカイ以上に洗練された設備を作り上げた。上演作の脚本には日本軍のチェックが入り、上演が許可されるかどうかは収容所長の気分次第だったという。舞台の練習は日々の厳しい労務のあとに行なわれたが、参加者はおおぜいいたとチョーカーはのちに回想している。

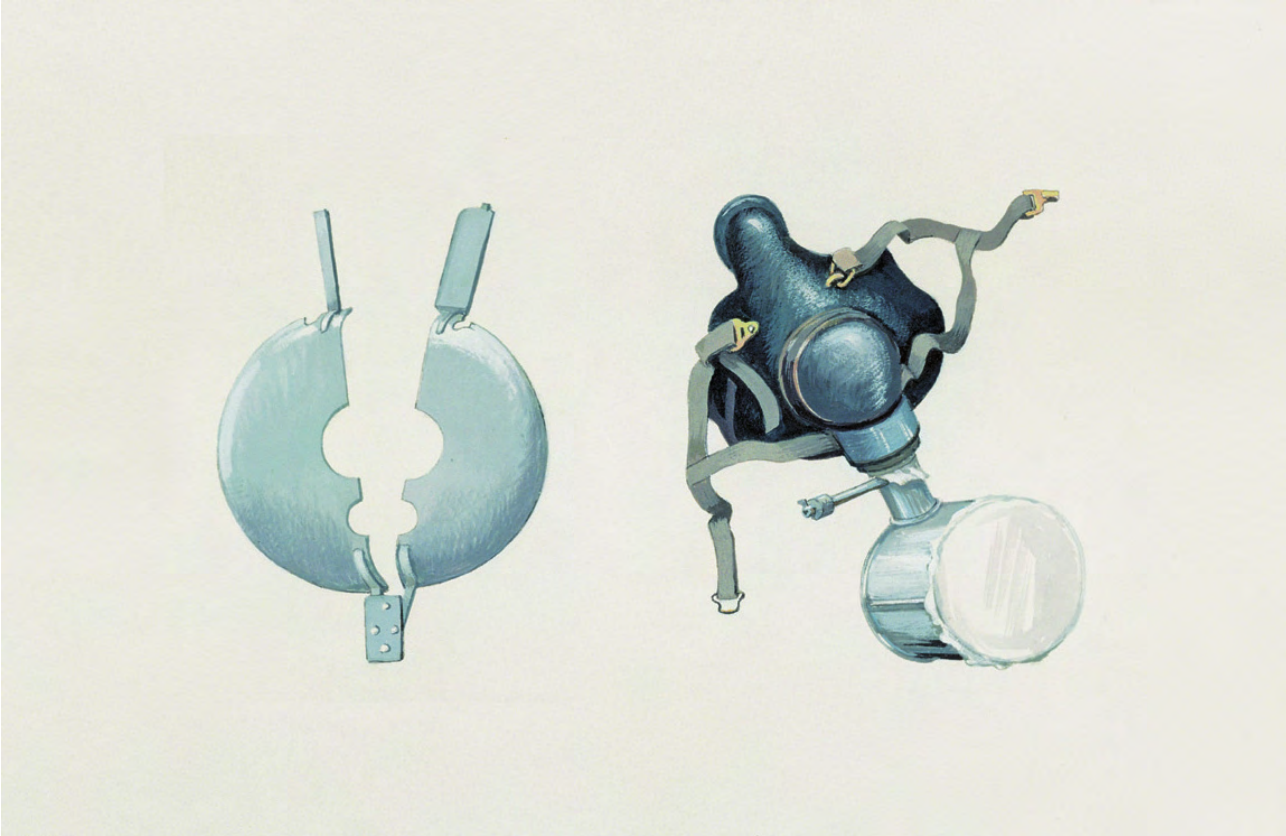
かつら。
ぼろぼろの帽子に、盗んだ麻をほぐして縫い付けた。
チュンカイ、１９４３年。



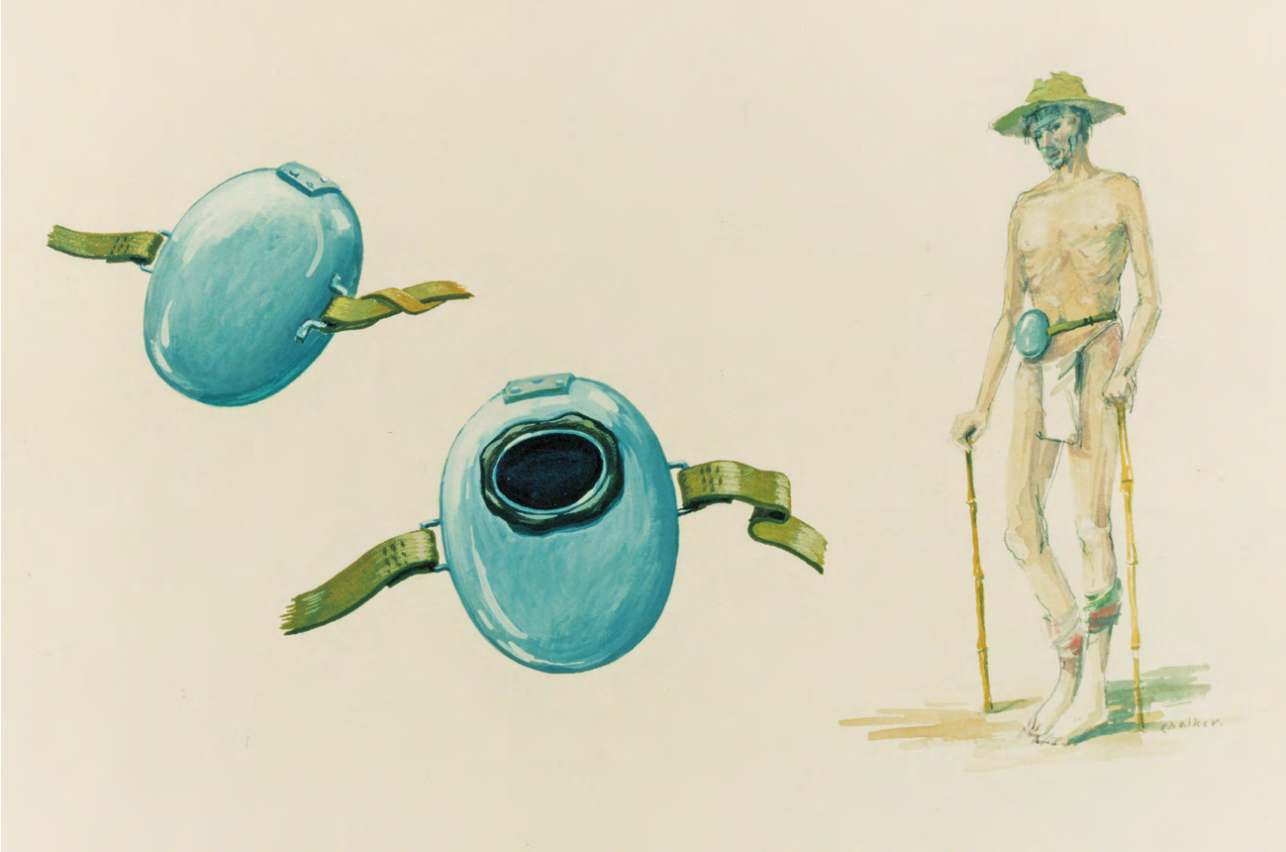
蘭印アンボン出身のユーラシアンの捕虜。
ナコーンパトム、１９４４年。



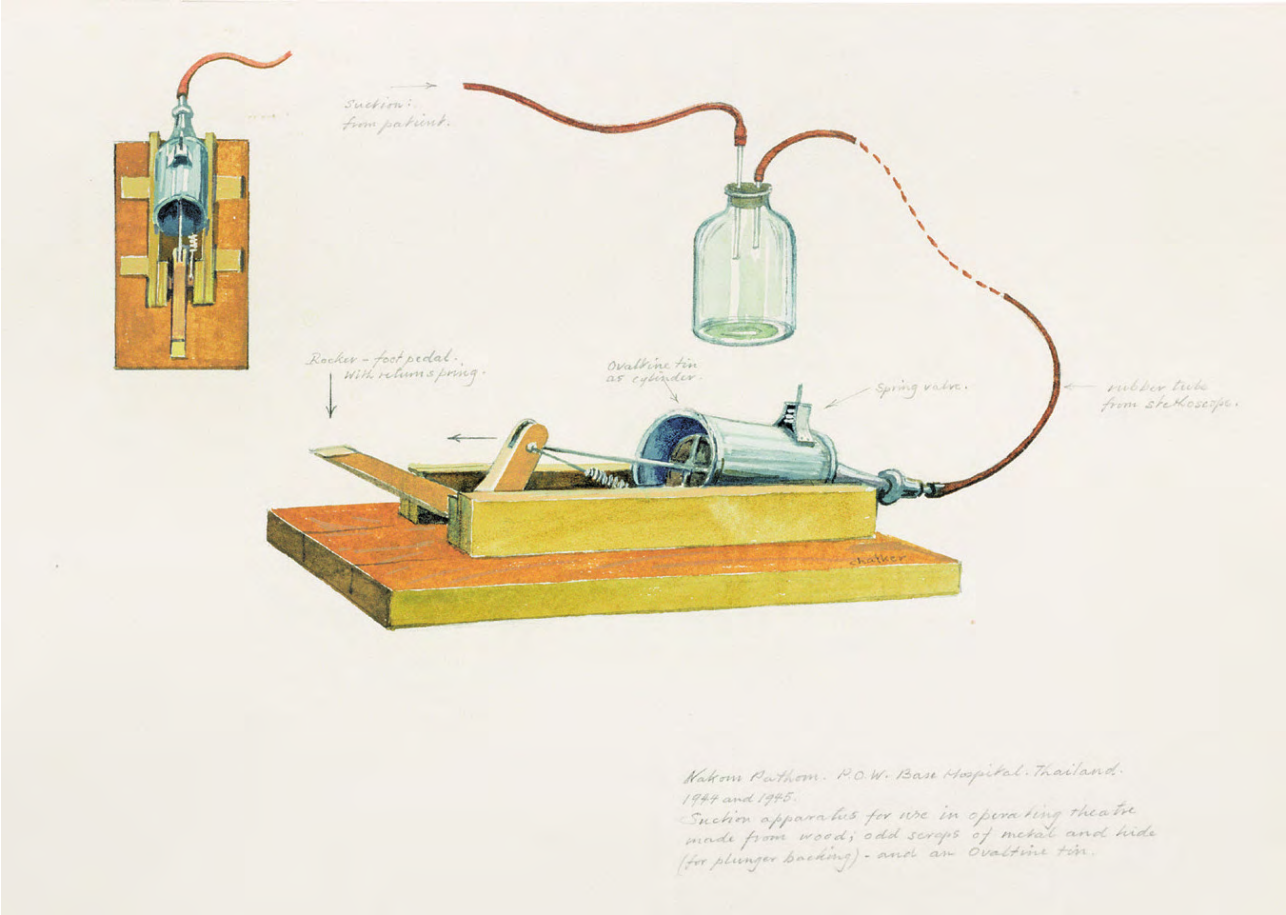
収容所で作られた直腸鏡や牽引器などの
内科・外科用医療器具。
１９４３－４５年。



麻酔用マスク。
陸軍支給のガスマスクの一片とコンデンスミルクの缶を
ガーゼで覆ったもので作られている。
チュンカイ、１９４３年。



人工肛門形成用の器具など。
オランダ製水筒を利用し、
古い雑嚢の革ひもがつけてある。
チュンカイ、１９４３年。

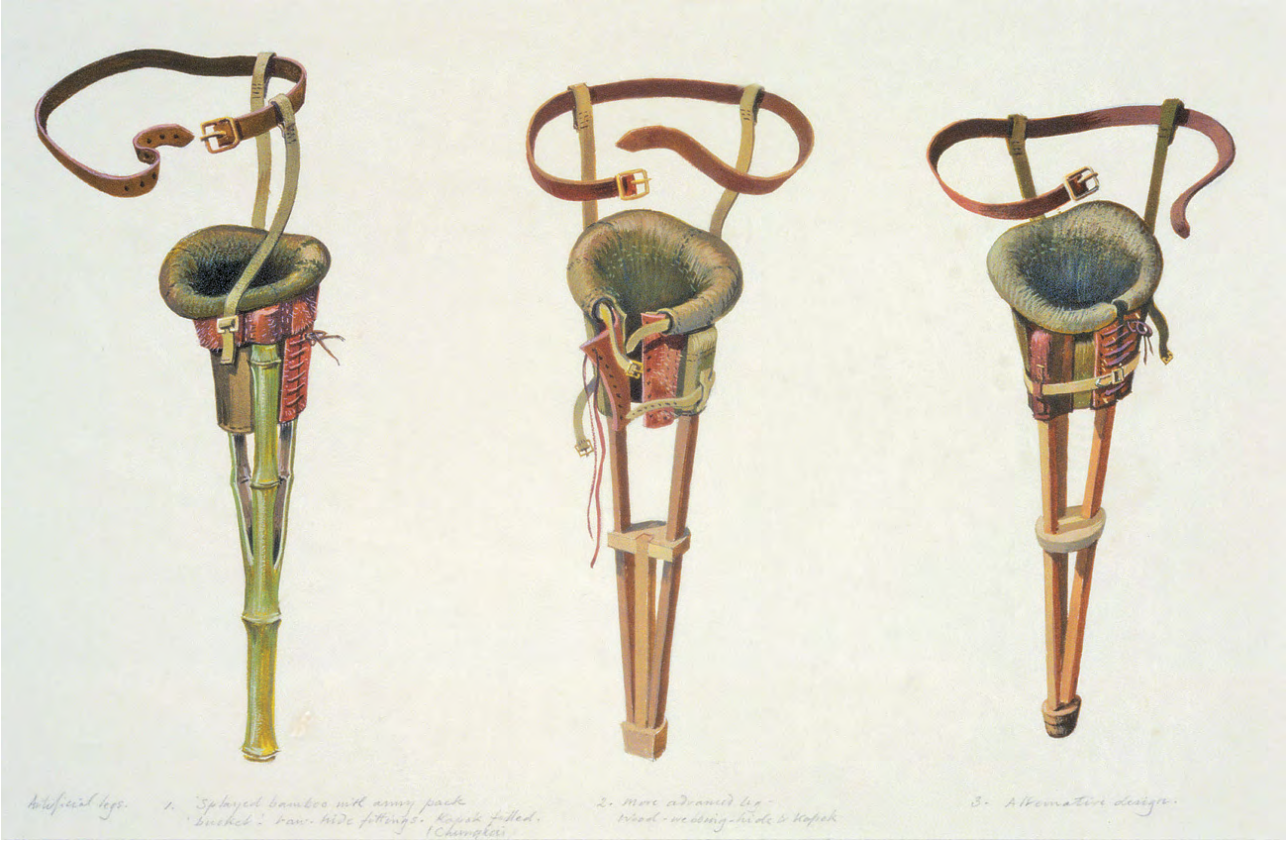


外科手術用吸引器具。足で操作する。
缶と木材、子牛の皮、聴診器のチューブで作られている。
１９４４－４５年、ナコーンパトム手術室で
常時使われていた。

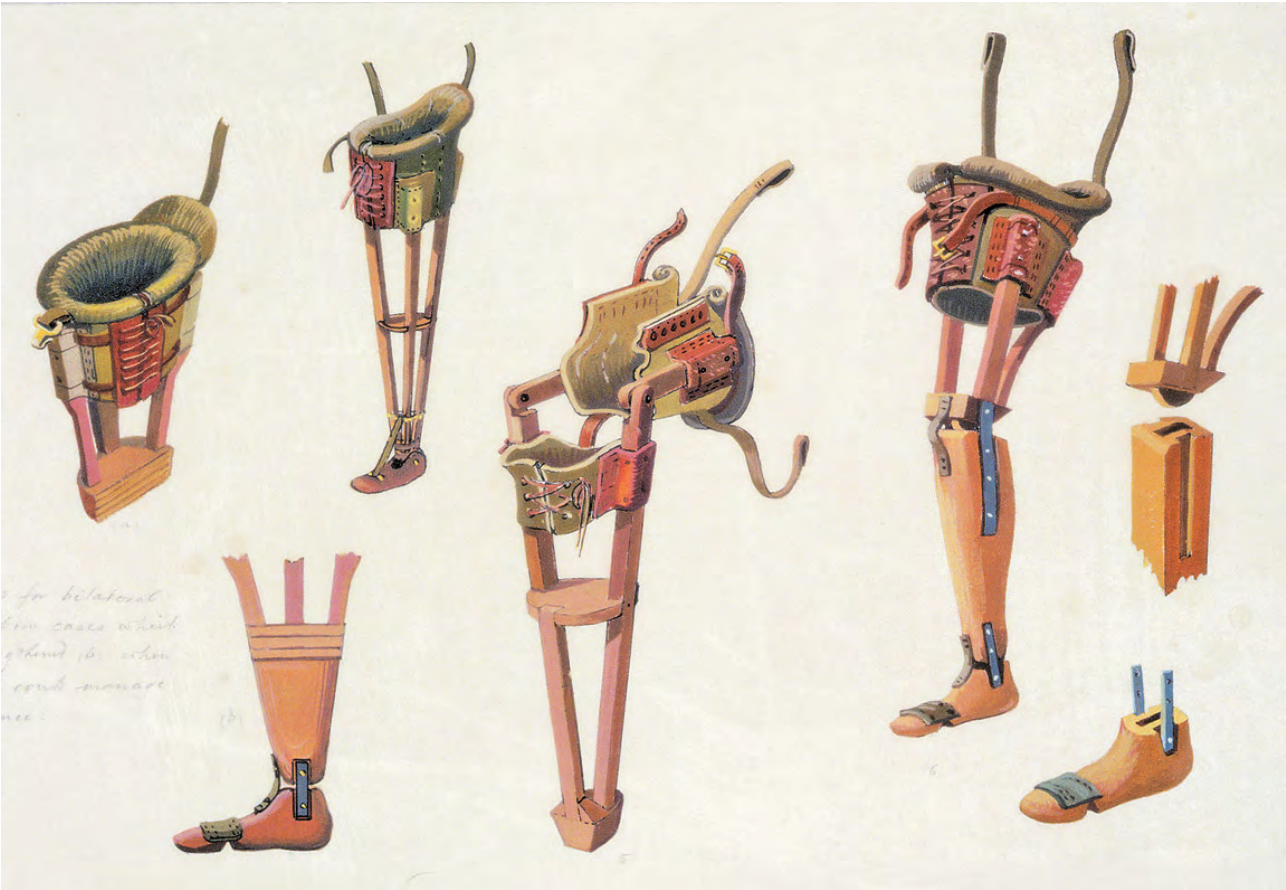
左に炊事棟、右は多数ある外科治療用の小屋の一つ。
チュンカイ、１９４３年。

チョーカーの過ごしたマラリア棟からの風景。
チュンカイ、１９４３年。

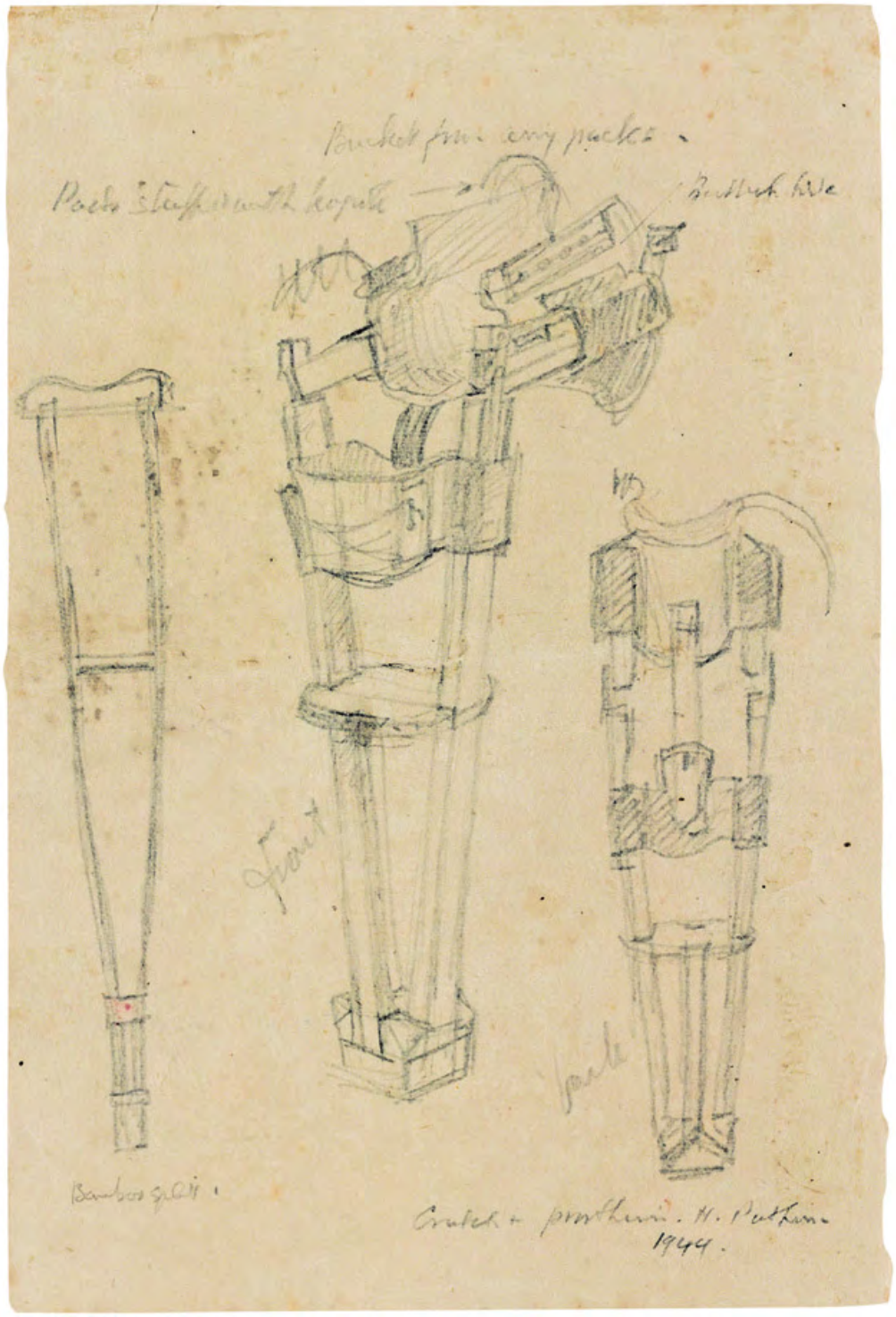
病棟近くの小さな炊事場所。日没時の様子。
チュンカイ、１９４３年。



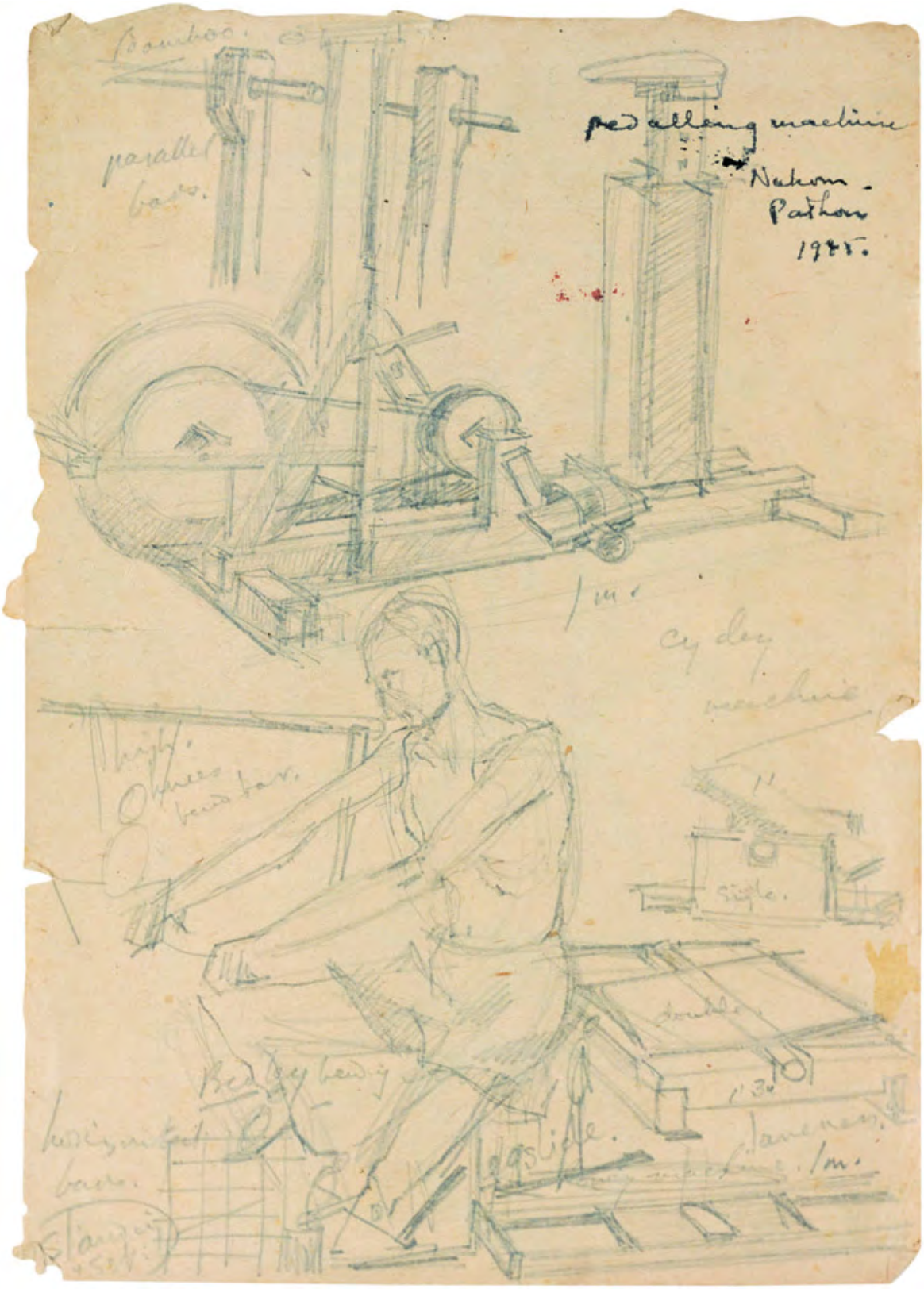
義肢。
熱帯性潰瘍が原因の「切断」患者たちにより、
１９４３年に初めてチュンカイで作られ、その後、
１９４４－４５年までナコーンパトムで作られた。
この絵は大まかに収容所で描いたメモを元に、
バンコクで１９４５年に仕上げた。（次ページも）



義肢。
熱帯性潰瘍が原因の「切断」患者たちにより、
１９４３年に初めてチュンカイで作られ、その後、
１９４４－４５年までナコーンパトムで作られた。
この絵は大まかに収容所で描いたメモを元に、
バンコクで１９４５年に仕上げた。（前ページも）

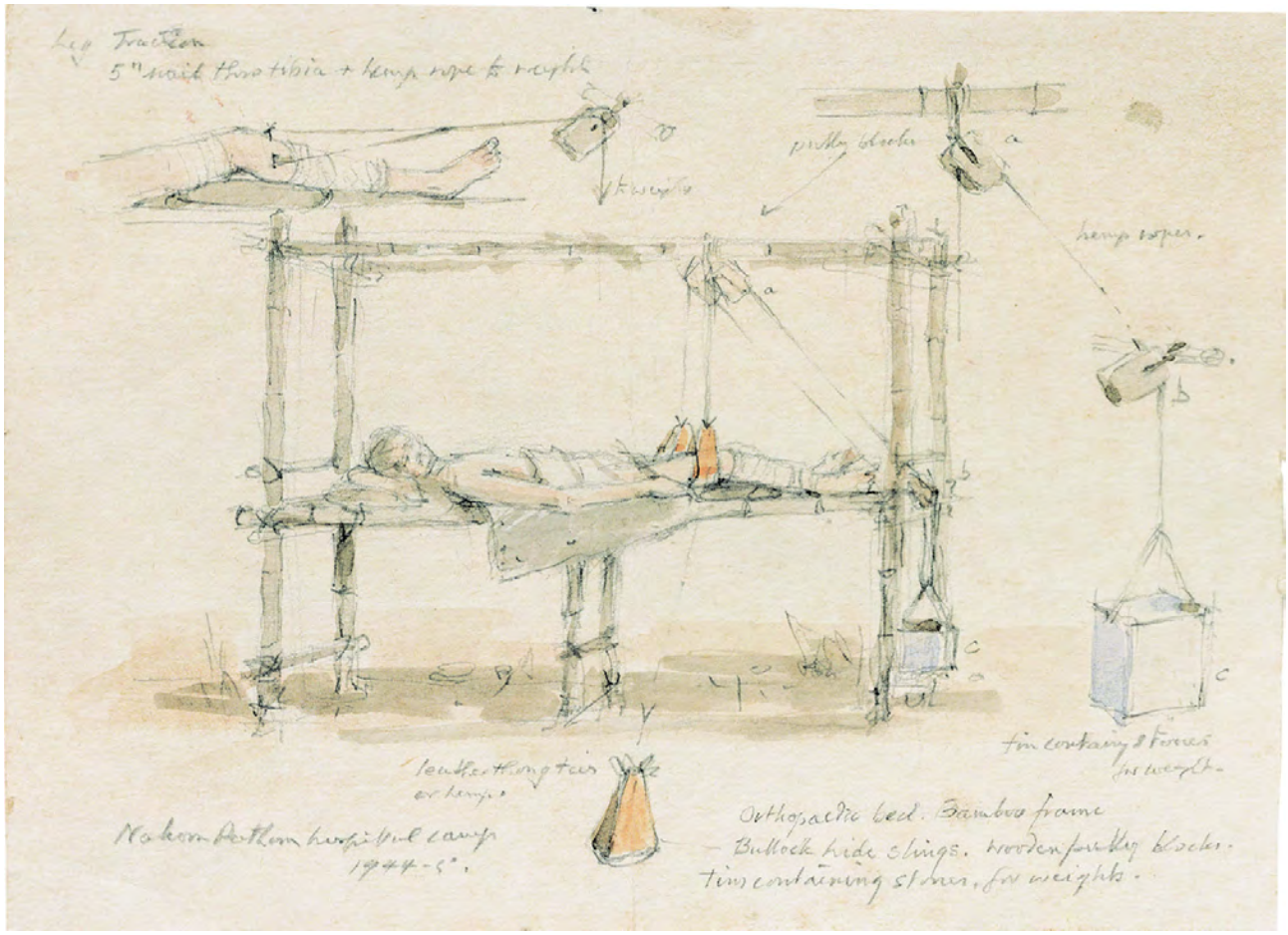


義肢などの補助具の仕組み。
木、牛皮、バケツを用いてカポックを詰めた。
大骨を切断した患者のために初めて作られた義肢。
収容所で配給されたノートを使用して描かれた。
ナコーンパトム、１９４４年。

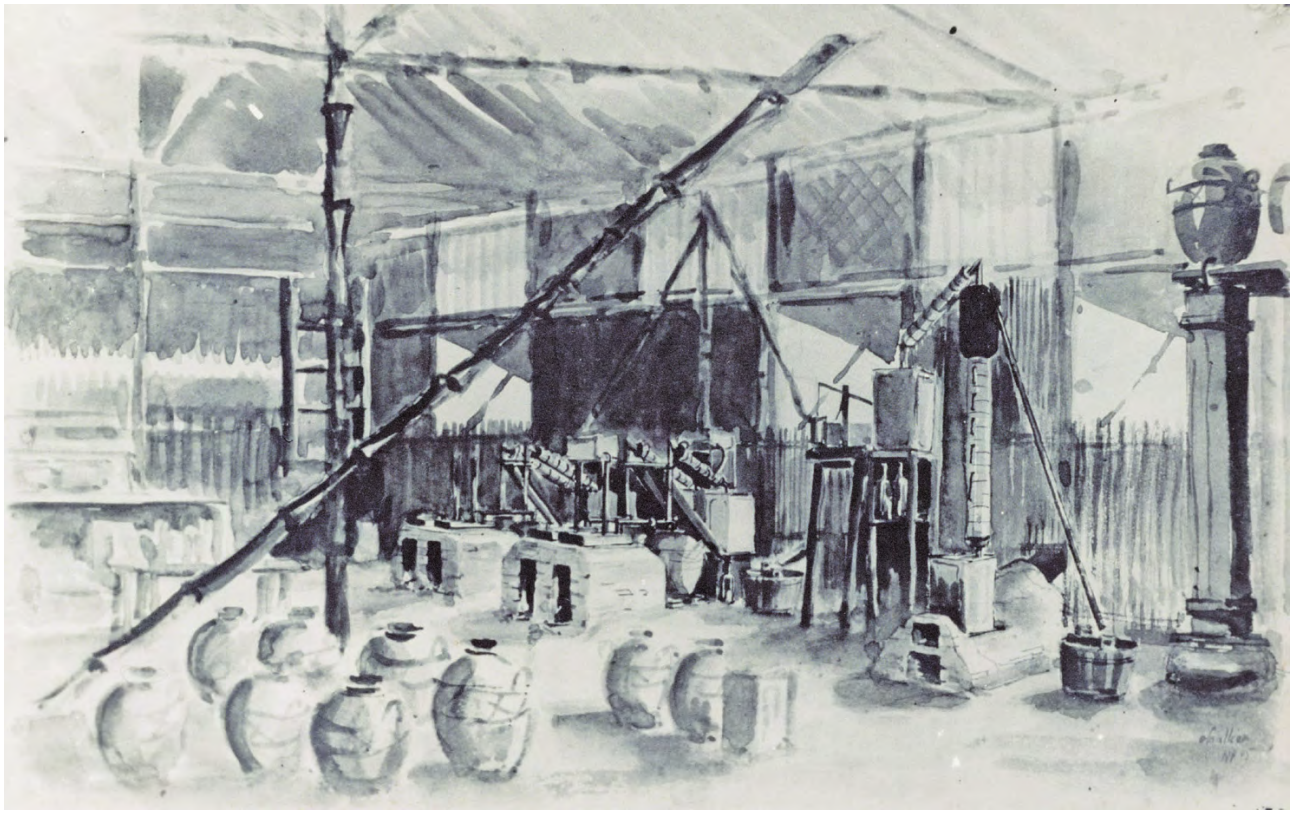


理学療法用器具。

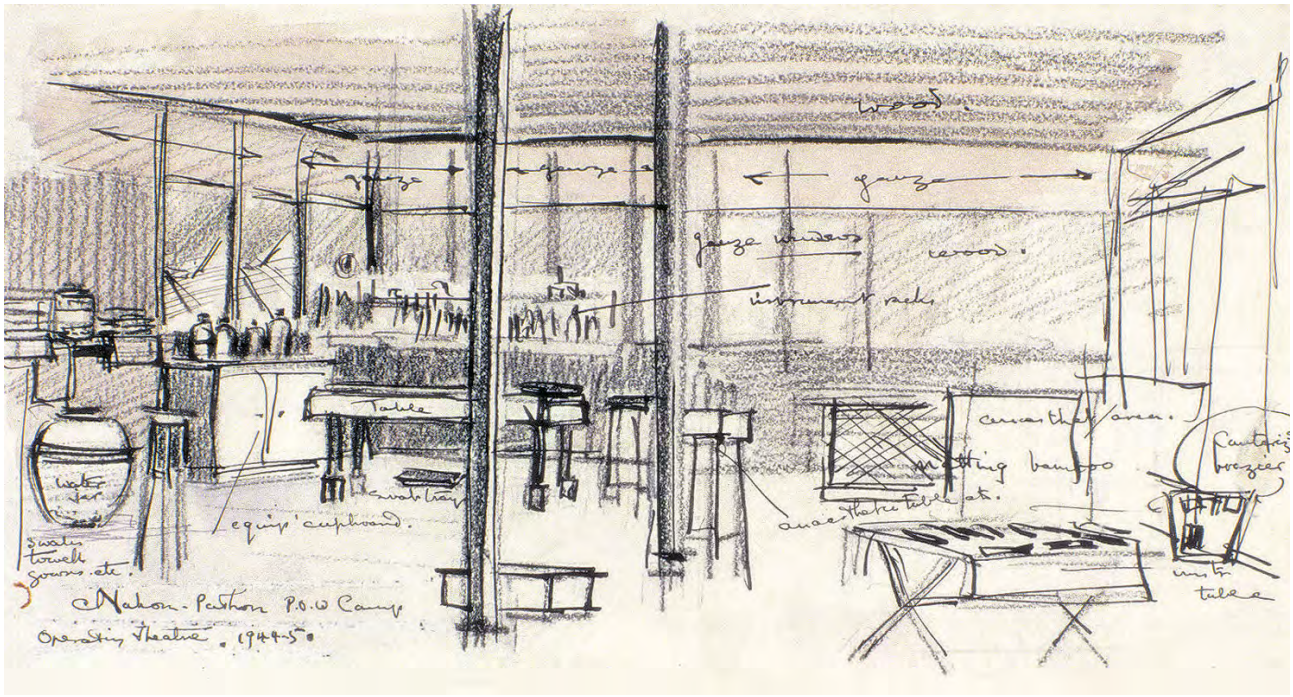
ナコーンパトム、１９４５年。



牽引用の重りと滑車のついた整形外科用寝台。
目の粗い麻のひもと牛皮でできた吊り包帯。
１３センチほどの釘を脛骨に入れることが、
足の牽引に効果的だった。
収容所で配給されたノートを使用。
ナコーンパトム、１９４４－４５年。



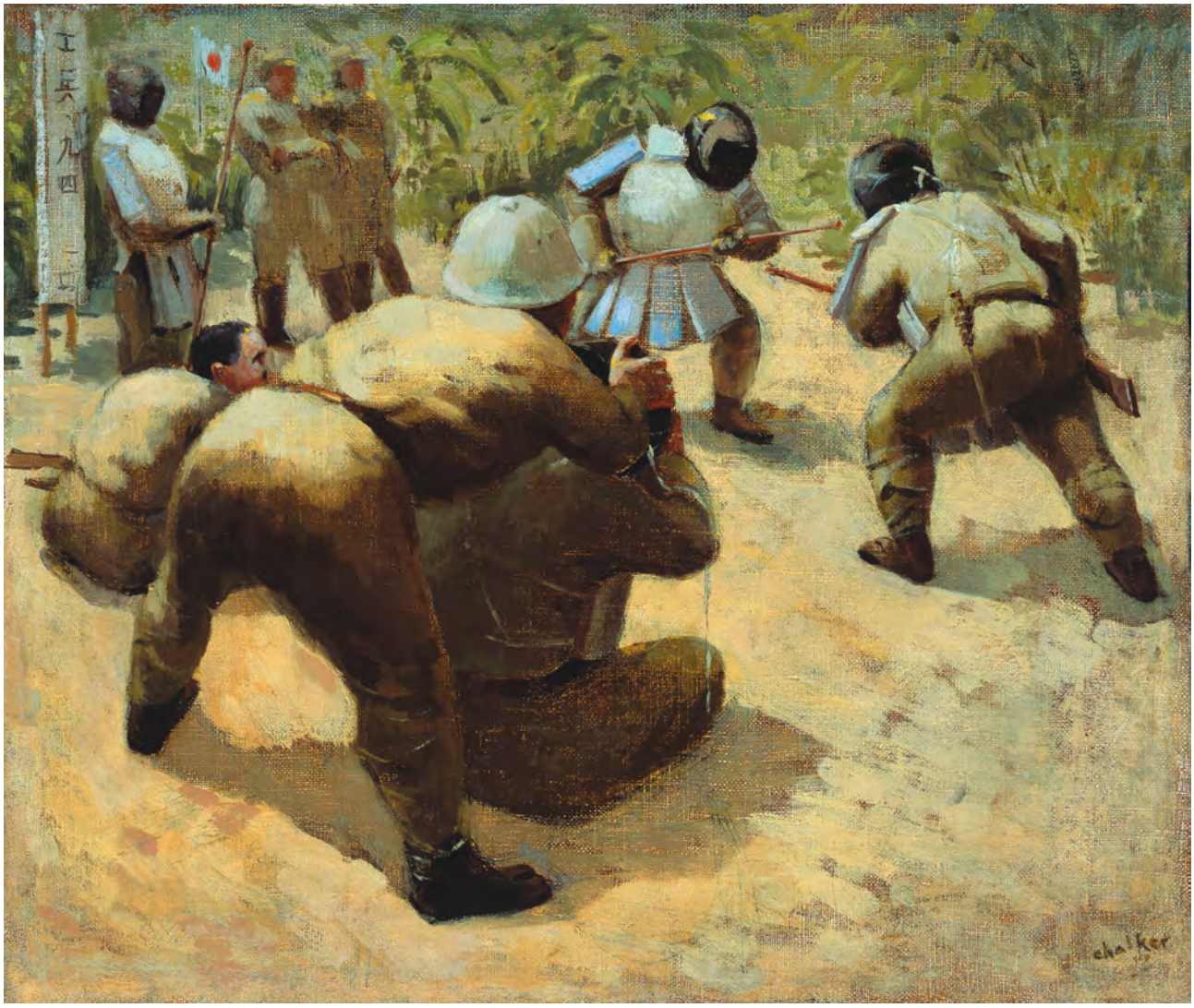
施薬所。
米とイーストをタイ製の壺の中で発酵させている。
後方には盗んできたコンデンスミルクの缶でできた
蒸留酒製造器具。この独創的な器具を用い、
濃度９０％アルコールを造り出し、潰瘍や傷口を
消毒した。消毒液はこれ以外に手に入らなかった。
外科手術に必要な縫合用の糸は、動物の上質の腹腔膜や
綿糸、パラシュートのひもなどを代用し、煮沸のあと、
アルコールにつけて保存した。ナコーンパトム、１９４５年。



手術室。
ナコーンパトム、１９４５年。

ナコーンパトム、１９４４－４５年。

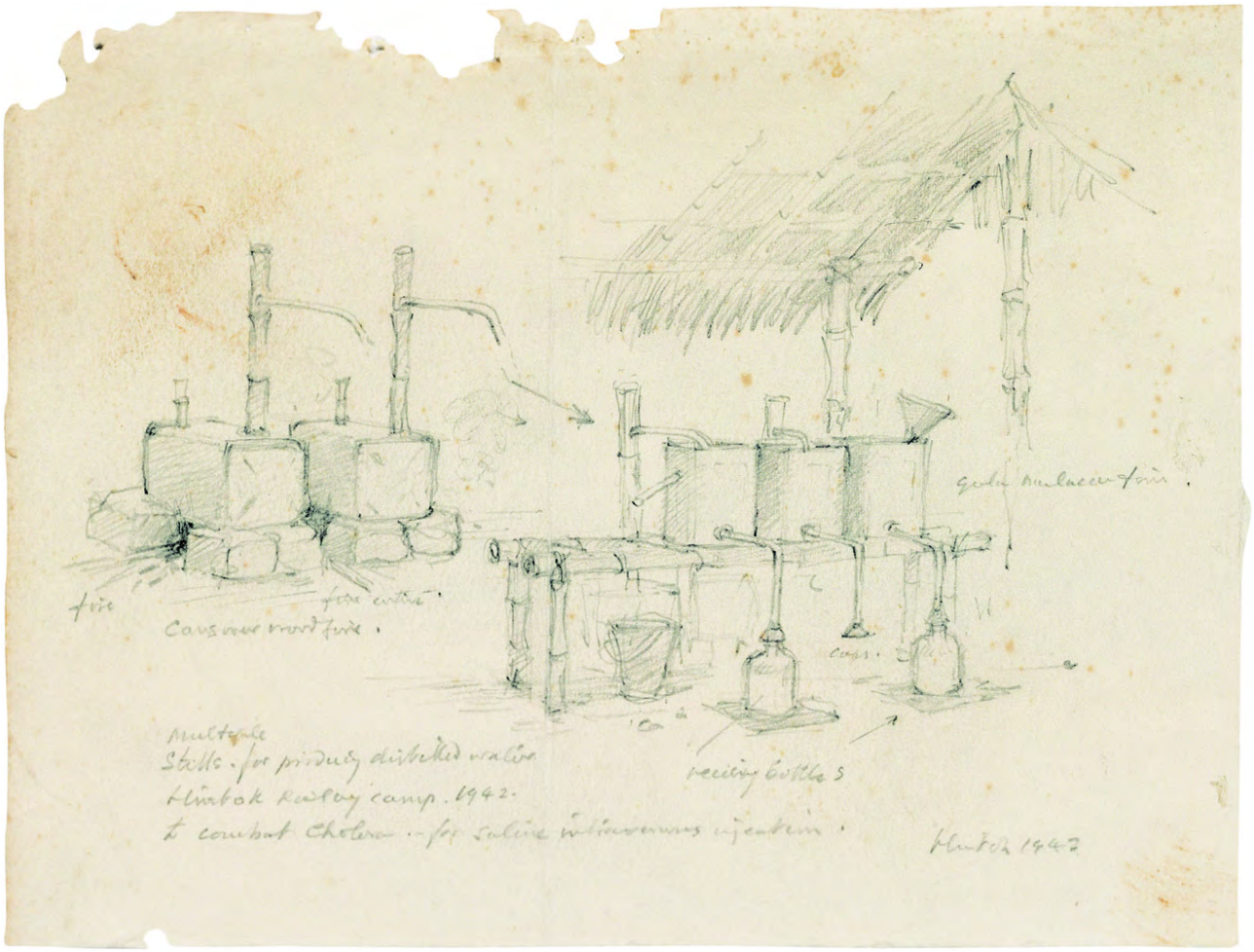
ナコーンパトム、１９４４－４５年。



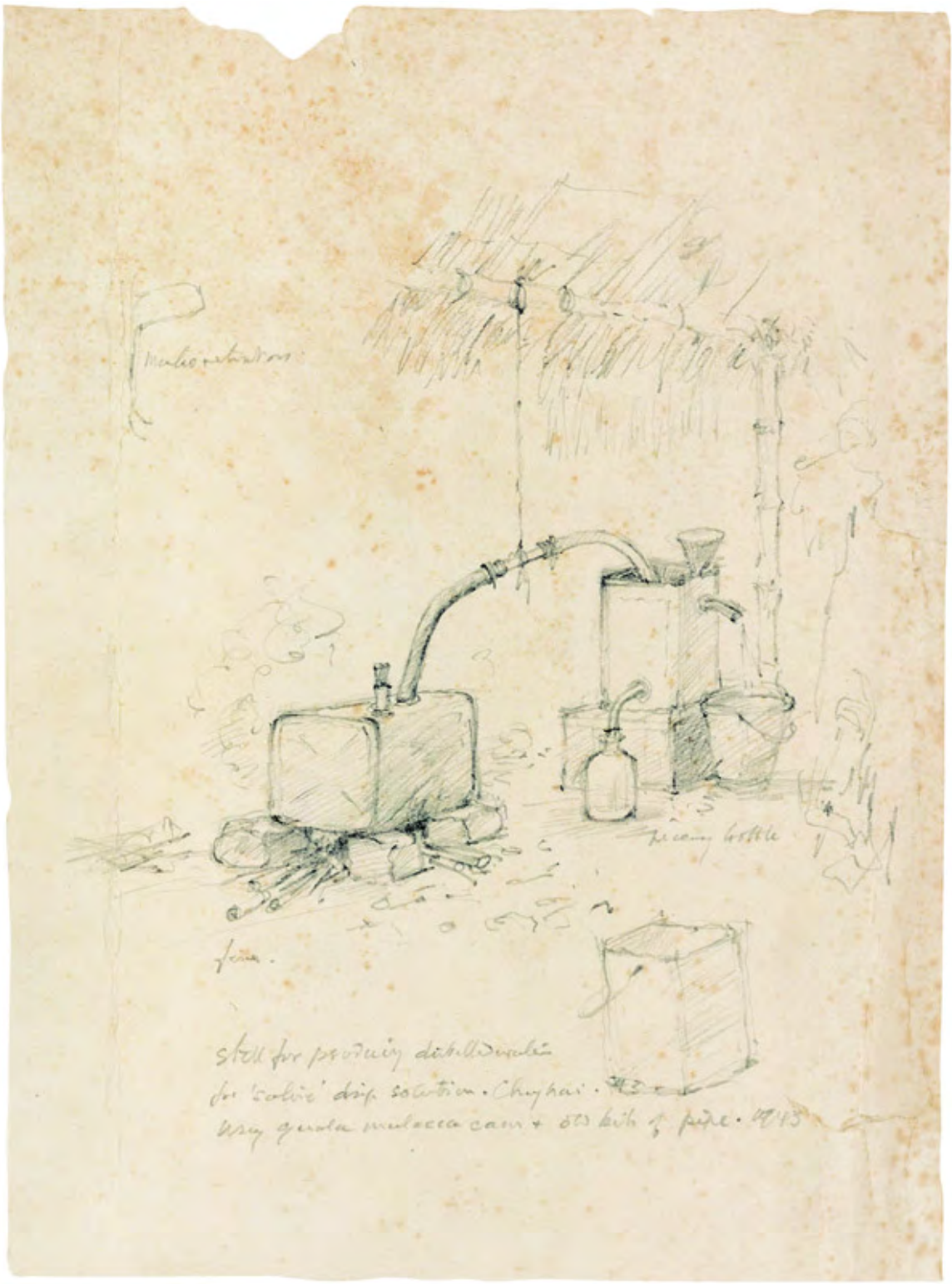
ナコーンパトムで銃剣訓練をする日本兵と朝鮮人監視員。
収容所のメモを元に戦後描かれた油絵。

ナコーンパトムで銃剣訓練をする日本人と朝鮮人監視員。
チーク材でできたライフルと分厚い紙張子甲冑。
１９４５年。（次ページも）

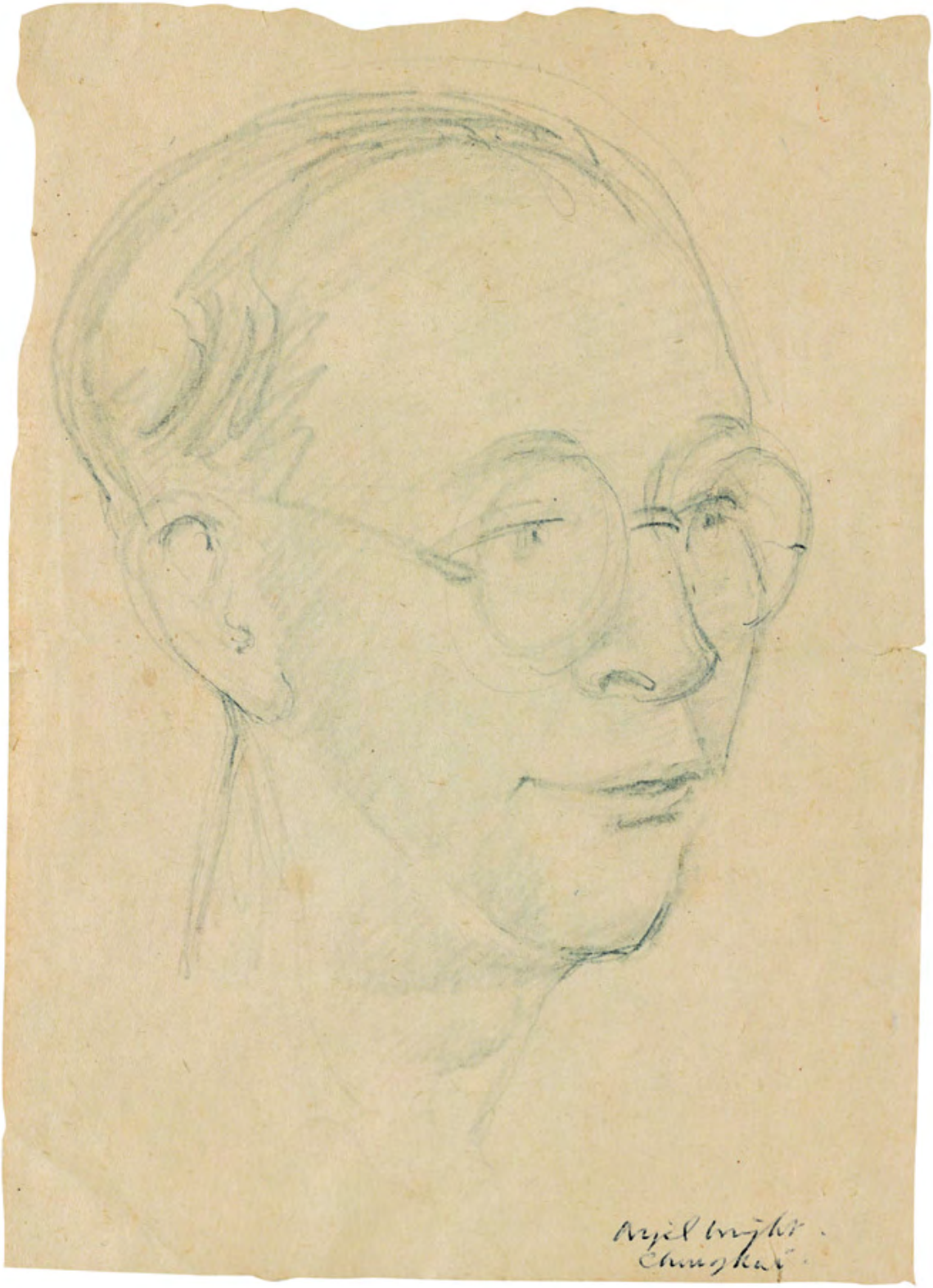
ナコーンパトムで銃剣訓練をする日本人と朝鮮人監視員。
チーク材でできたライフルと分厚い紙張子甲冑。
１９４５年。（前ページも）



応急に作った並列式蒸留器。コレラ患者への点滴に
必要な蒸留水を精製するため製作した。
古いパームシュガーの缶、盗んできたパイプ、
竹でできている。
ヒントク、１９４３年。



「蒸留器」。
コレラ患者への点滴に必要な蒸留水を作るため、
ヒントクとチュンカイで用いられた。
古いパームシュガーの缶と盗んできたパイプで作った。

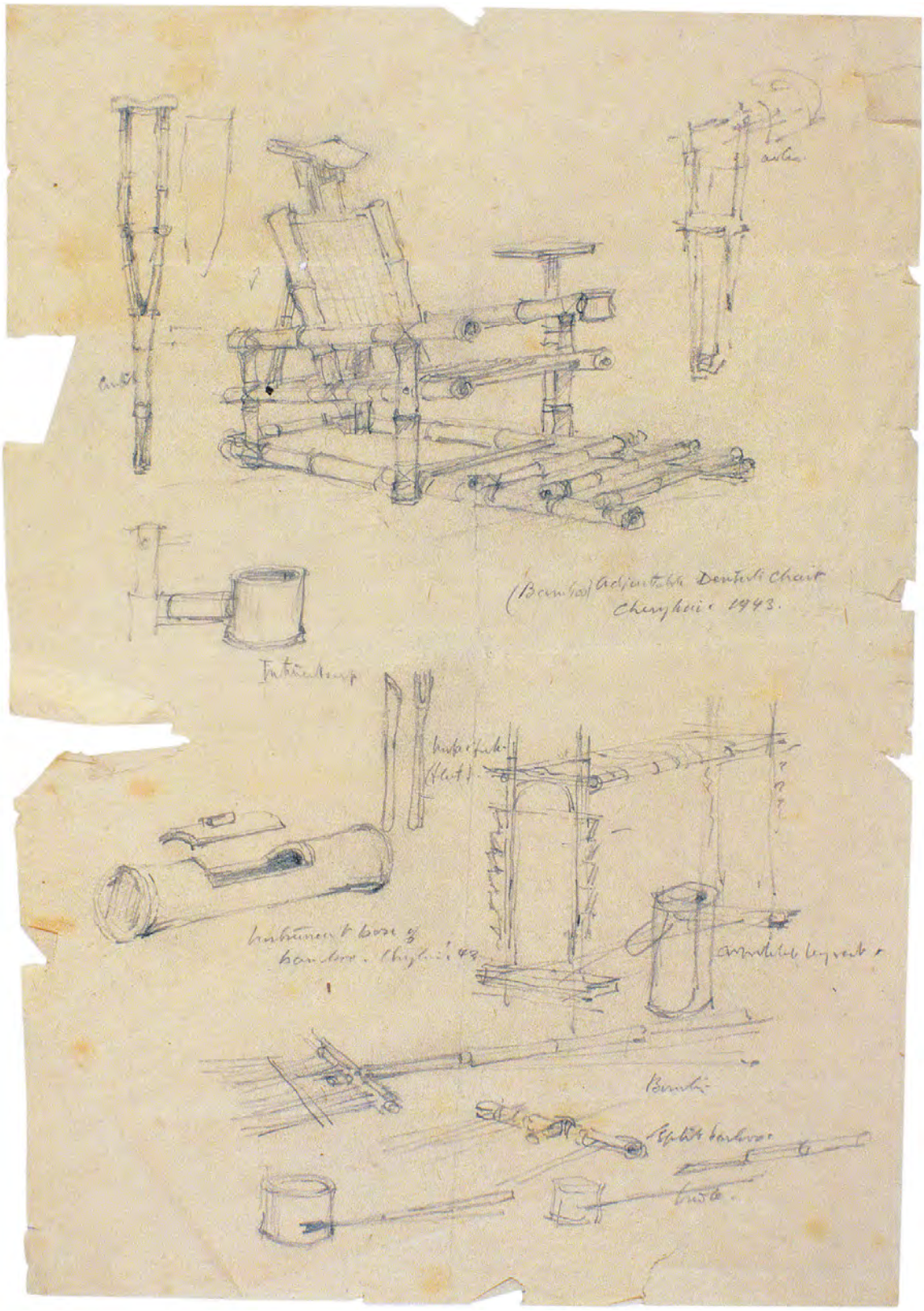


ナイジェル・ライト。科学者、遺伝学者、役者であり、
チョーカーたちにとって素晴らしい友人だった。
チュンカイとナコーンパトム、１９４３－４５年。

ウィム・カーン。オランダの偉大な俳優で、
風刺的なユーモアあふれる劇作家。
ナコーンパトムで戯曲５本を
オランダ語と英語の両方で仕上げた。
チュンカイ、１９４４－４５年。

ダルシー・ウォルターズ。
オーストラリア軍の砲兵隊員で、トランプ橋建設に従事。
カンユー、１９４３年。

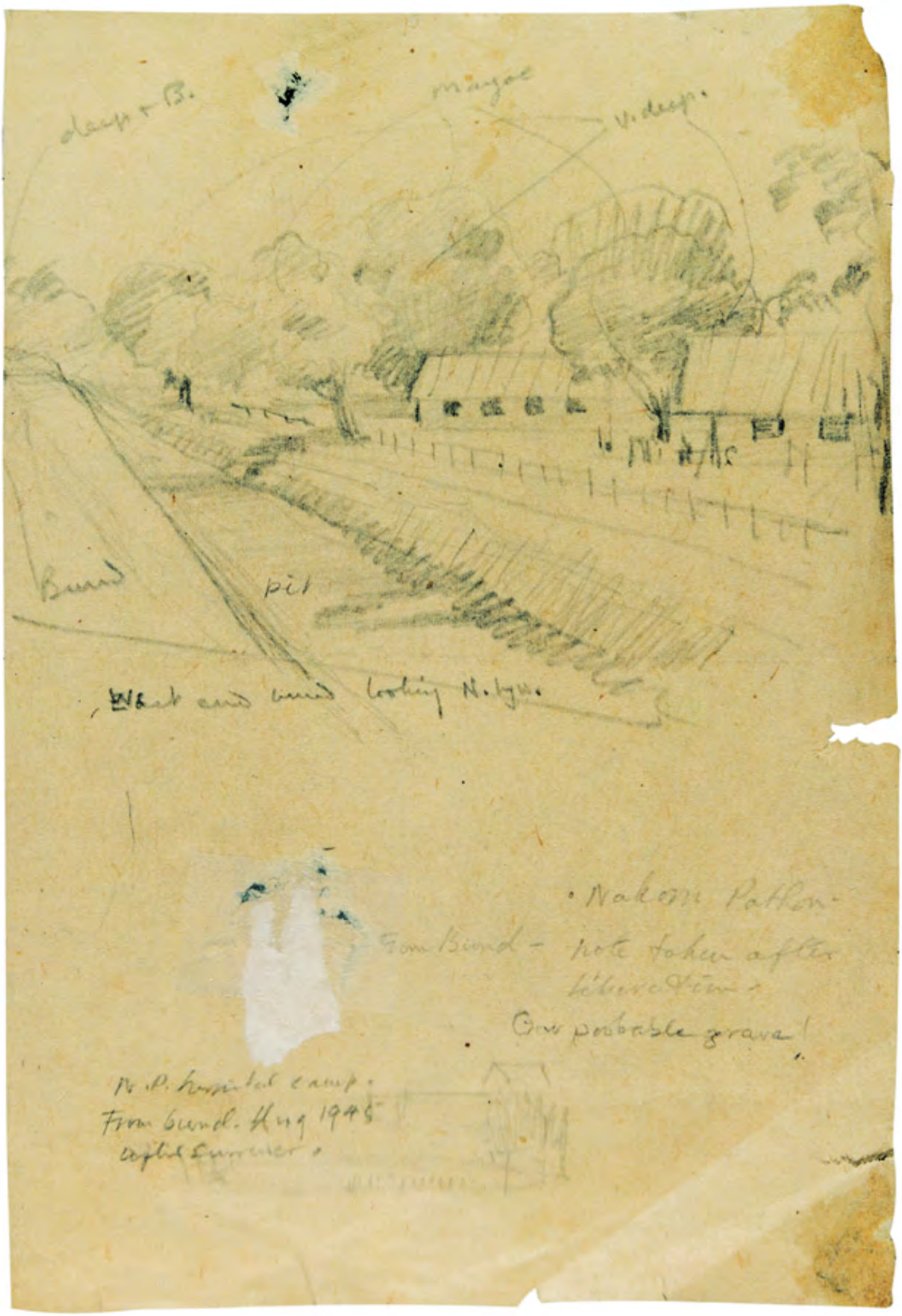
イギリス系インド人の医療看護人。
チュンカイ、１９４３年。



竹で組み立てられた調節可能な歯科用の椅子、
松葉杖ほか。ジャングルの収容所にて。

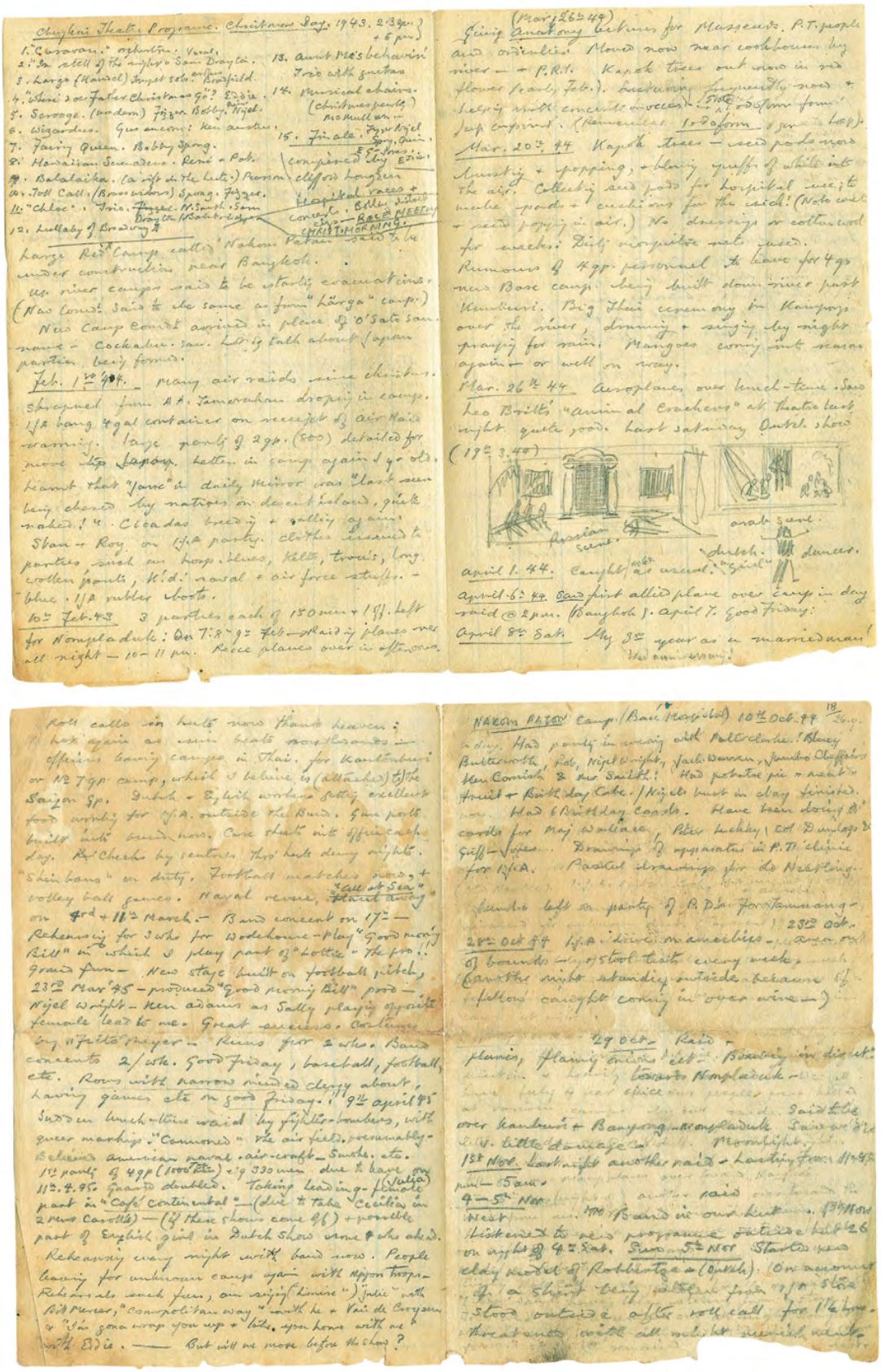
カンユー、チュンカイおよびナコーンパトムの
スケッチメモ。１９４２－４５年。
（次ページも）

カンユー、チュンカイおよびナコーンパトムの
スケッチメモ。１９４２－４５年。（前ページも）

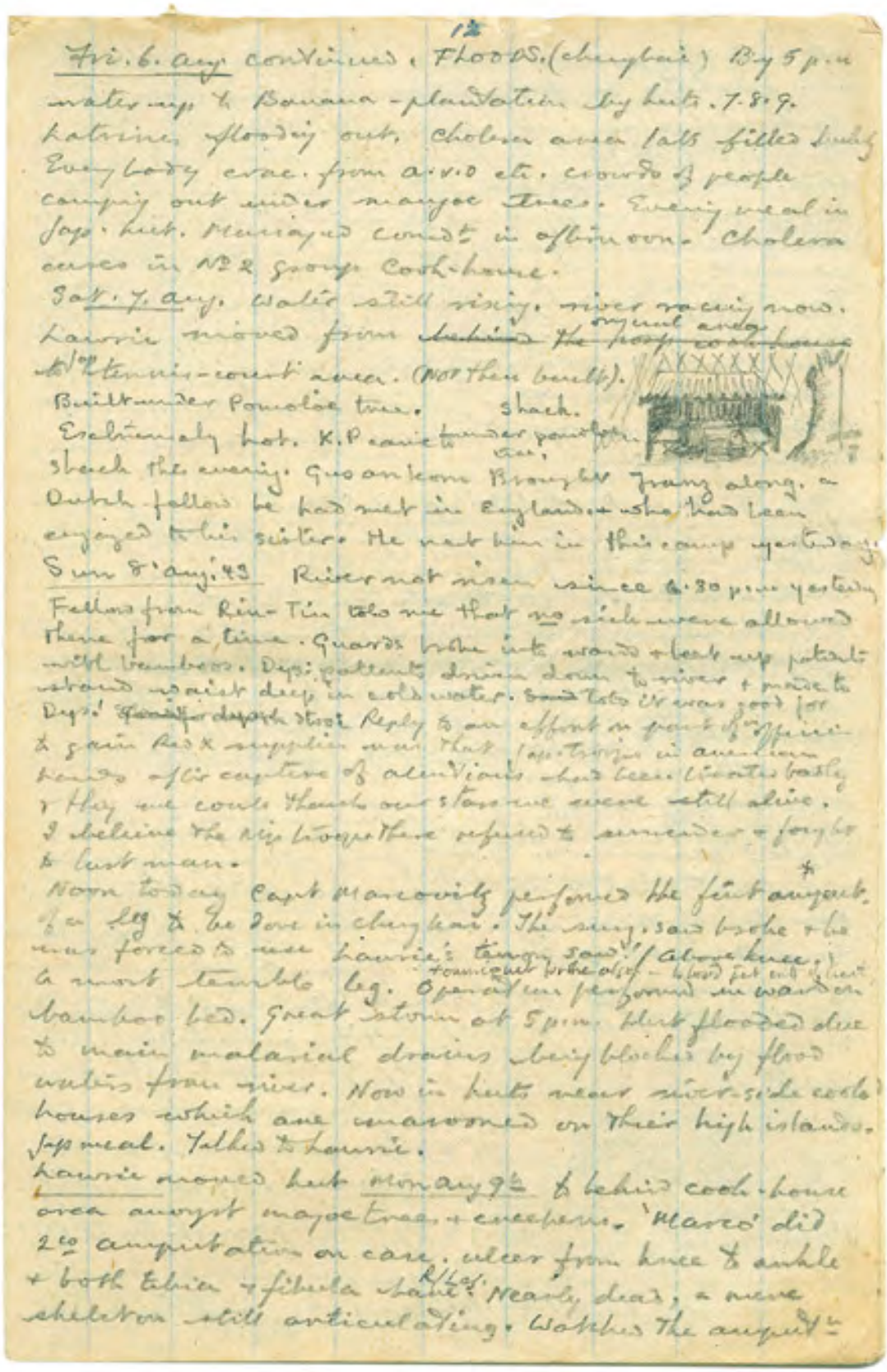


ナコーンパトム、１９４５年。

クウェーノーイ川を見下ろす風景。
亜熱帯の熱帯雨林に覆われた、山がちな地帯である。
１９８７年に現地を再訪したチョーカーが撮影した写真。



戦争日記。（次ページ、次々ページも）



12

Fri. 6. Aug continued. FLOODS. (chaplain) By 5 p.m water up to Banana-plantation by huts. 7.8.9. Latrines flooding out. Cholera area falls filled badly. Everybody evac. from a.v.o etc. crowds of people camping out under mango trees. Evening meal in Jap. hut. Marquee concert in afternoon. Cholera cases in No 2 group Cook-house.

Sat. 7. Aug. Water still rising. river raging now. Laurie moved from ~~behind the hosp cook house~~ opposite and to 'tennis-court' area. (Not then built).

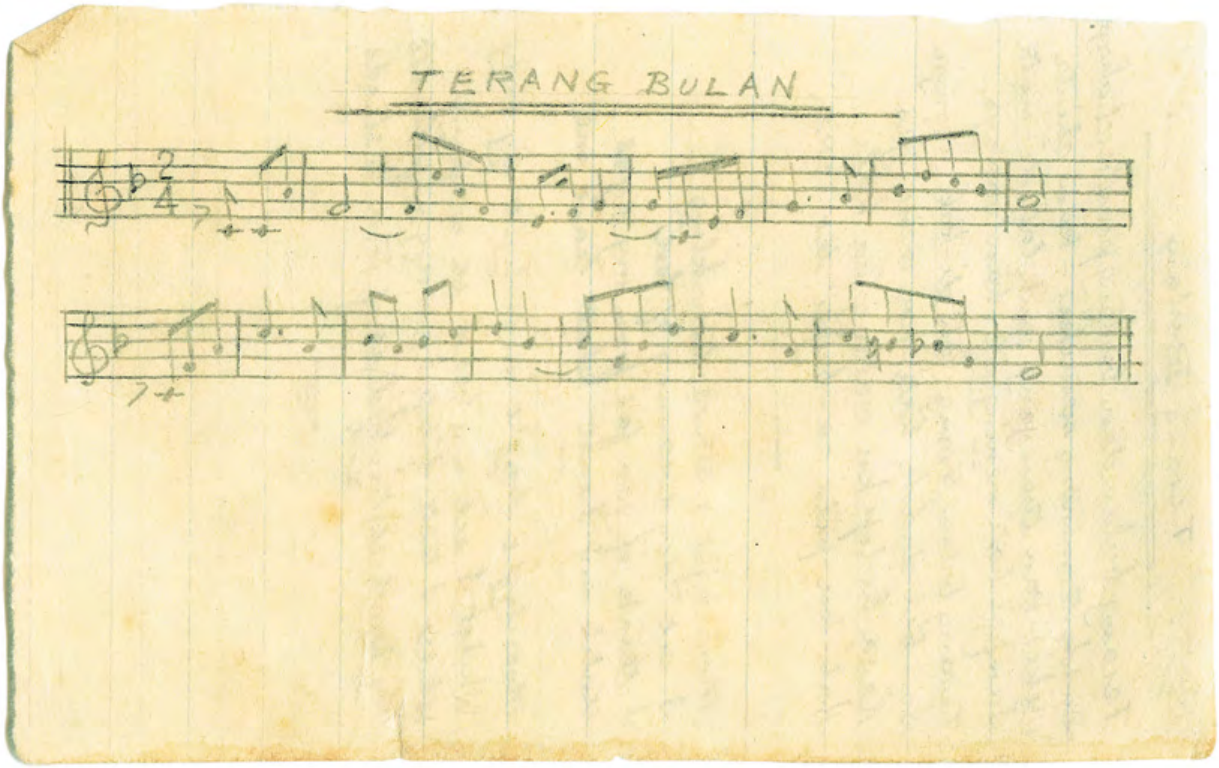
Built under Pomelos tree. Exceptionally hot. K.P came to under pouring shack the evening. Gus on leave. Brought Franz along. a Dutch fellow he had met in England & who had been engaged to his sister. He met him in this camp yesterday.

Sun 8. Aug. 43 River not risen since 6.30 p.m. yesterday. Fellows from Rin-Tin told me that no sick were allowed there for a time. Guards broke into wards & beat up patients with bamboos. Days patients driven down to river & made to stand waist deep in cold water. ~~Said~~ Told it was good for Days! ~~Family dysentery~~ stuff. Reply to an effort on part of Japs to gain Red X supplies was that Jap troops in American hands after capture of Alexandria had been treated badly & they we could thank our stars we were still alive. I believe the Nip troops there refused to surrender & fought to last man.

Noon today Capt Marcovitz performed the first amputation of a leg & he done in chaplain. The saw, saw broke & he was forced to use Laurie's tenon saw! (above knee.) to remove terrible leg. Operation performed on ward on bamboo bed. Great storm at 5 p.m. that flooded due to main malarial drains being blocked by flood waters from river. Now in huts near river-side cook houses which are marooned on their high islands. Jap meal. Talked to Laurie.

Laurie moved back Monday 9th to behind cook-house area amongst mango trees & creepers. 'Marco' did 2nd amputation on case. ulcer from knee to ankle & both tibia & fibula bare R/Leg. Nearly dead, a mere skeleton still articulating. Washed the amputn

戦争日記。（前ページ、次ページも）



戦争日記。（前ページ、前々ページも）

TO ALL ALLIED PRISONERS OF WAR

THE JAPANESE FORCES HAVE SURRENDERED UNCONDITIONALLY AND THE WAR IS OVER

WE will get supplies to you as soon as is humanly possible and will make arrangements to get you out but, owing to the distances involved, it may be some time before we can achieve this.

YOU will help us and yourselves if you act as follows :—

(1) Stay in your camp until you get further orders from us.

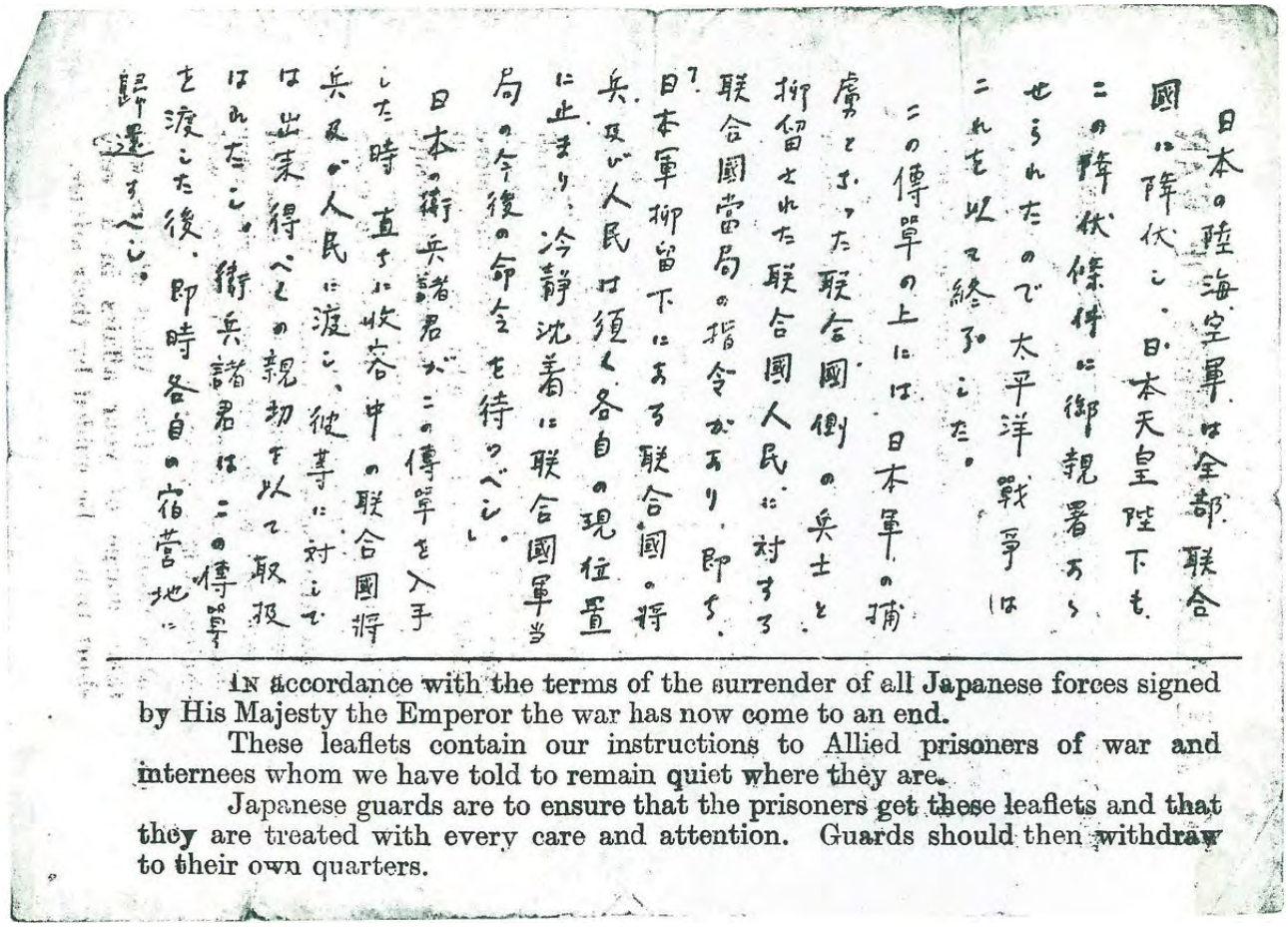
(2) Start preparing nominal rolls of personnel, giving fullest particulars.

(3) List your most urgent necessities.

(4) If you have been starved or underfed for long periods DO NOT eat large quantities of solid food, fruit or vegetables at first. It is dangerous for you to do so. Small quantities at frequent intervals are much safer and will strengthen you far more quickly. For those who are really ill or very weak, fluids such as broth and soup, making use of the water in which rice and other foods have been boiled, are much the best. Gifts of food from the local population should be cooked. We want to get you back home quickly, safe and sound, and we do not want to risk your chances from diarrhoea, dysentry and cholera at this last stage.

(5) Local authorities and/or Allied officers will take charge of your affairs in a very short time. Be guided by their advice.

航空機から収容所に落とされたパンフレット。
日本語と英語それぞれで、日本の降伏を告げている。
（次ページも。日本語は次ページ参照）



日本の陸海空軍は全部聯合國に降伏し、日本天皇陛下も
この降伏條件に御親署あらせられたので太平洋戰爭は
これを以て終了した。

この傳單の上には日本軍の捕虜となった聯合國側の兵士と
抑留された聯合國人民に対する聯合國當局の指令があり、即ち、
日本軍抑留下にある聯合國の將兵及び人民は須く各自の現位置
に止まり、冷靜沈着に聯合國軍當局の今後の命令を待つべし。

日本の衛兵諸君がこの傳單を入手した時、直ちに收容中の聯合國將兵及び人民に渡し、彼等に対しては出來得べく親切を以て取扱はれたし。衛兵諸君はこの傳單を渡した後、即時各自の宿營地に歸還すべし。

IN accordance with the terms of the surrender of all Japanese forces signed by His Majesty the Emperor the war has now come to an end.

These leaflets contain our instructions to Allied prisoners of war and internees whom we have told to remain quiet where they are.

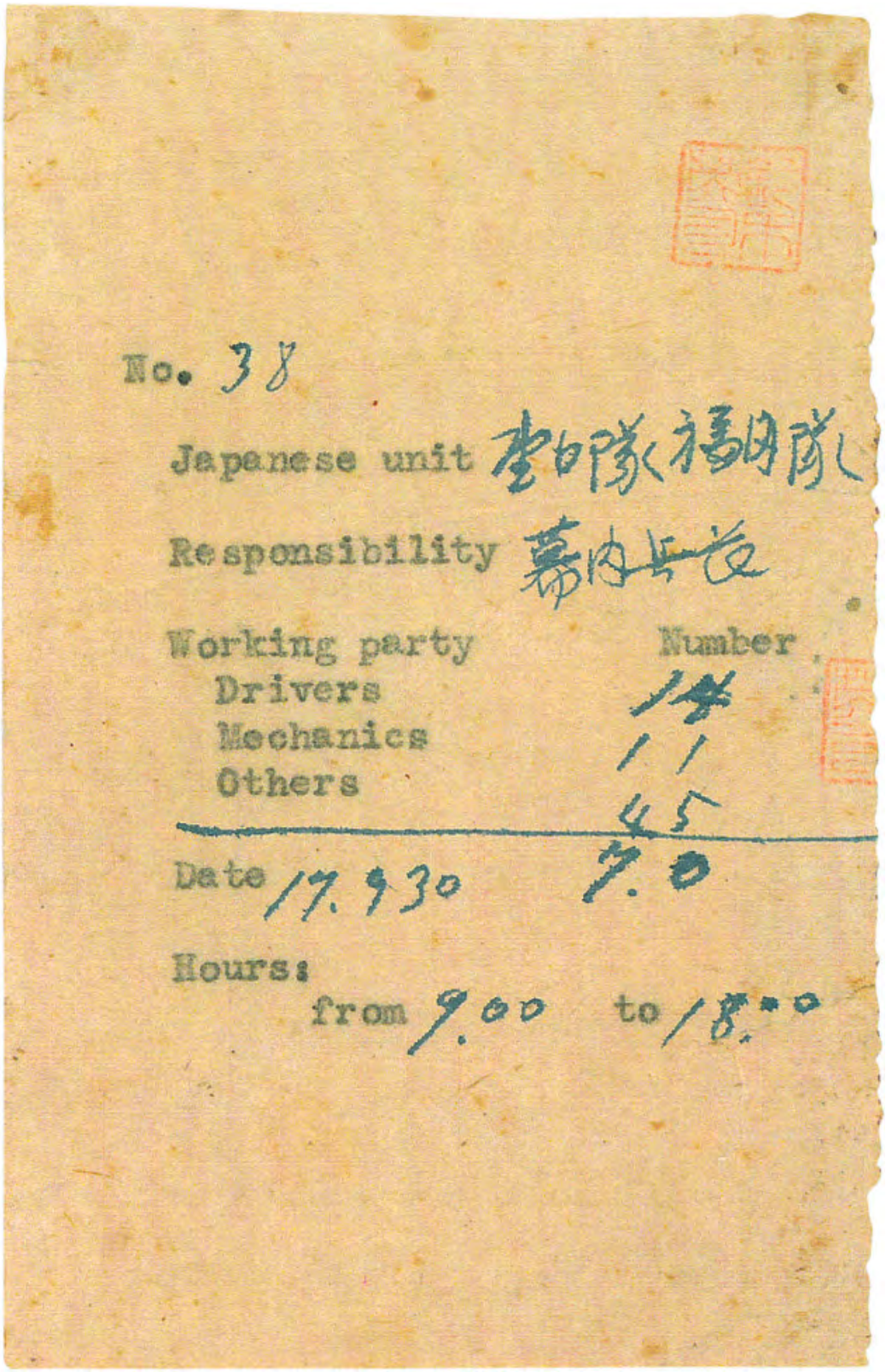
Japanese guards are to ensure that the prisoners get these leaflets and that they are treated with every care and attention. Guards should then withdraw to their own quarters.

航空機から収容所に落とされたパンフレット。
日本語と英語それぞれで、日本の降伏を告げている。
（前ページも）

解放時にチョーカーが所持していたタイ紙幣。

収容所での医療審査。捕虜たちの労働適否を決めるため、
日本軍の収容所長によって行われた。
戦後に描かれた大きな油絵。

ノートの表紙。
チョーカーは絵を描くのにこの紙も使用した。
チュンカイおよびナコーンパトム、１９４３－４５年。



No. 38

Japanese unit 第白隊 福田隊

Responsibility 幕内兵長

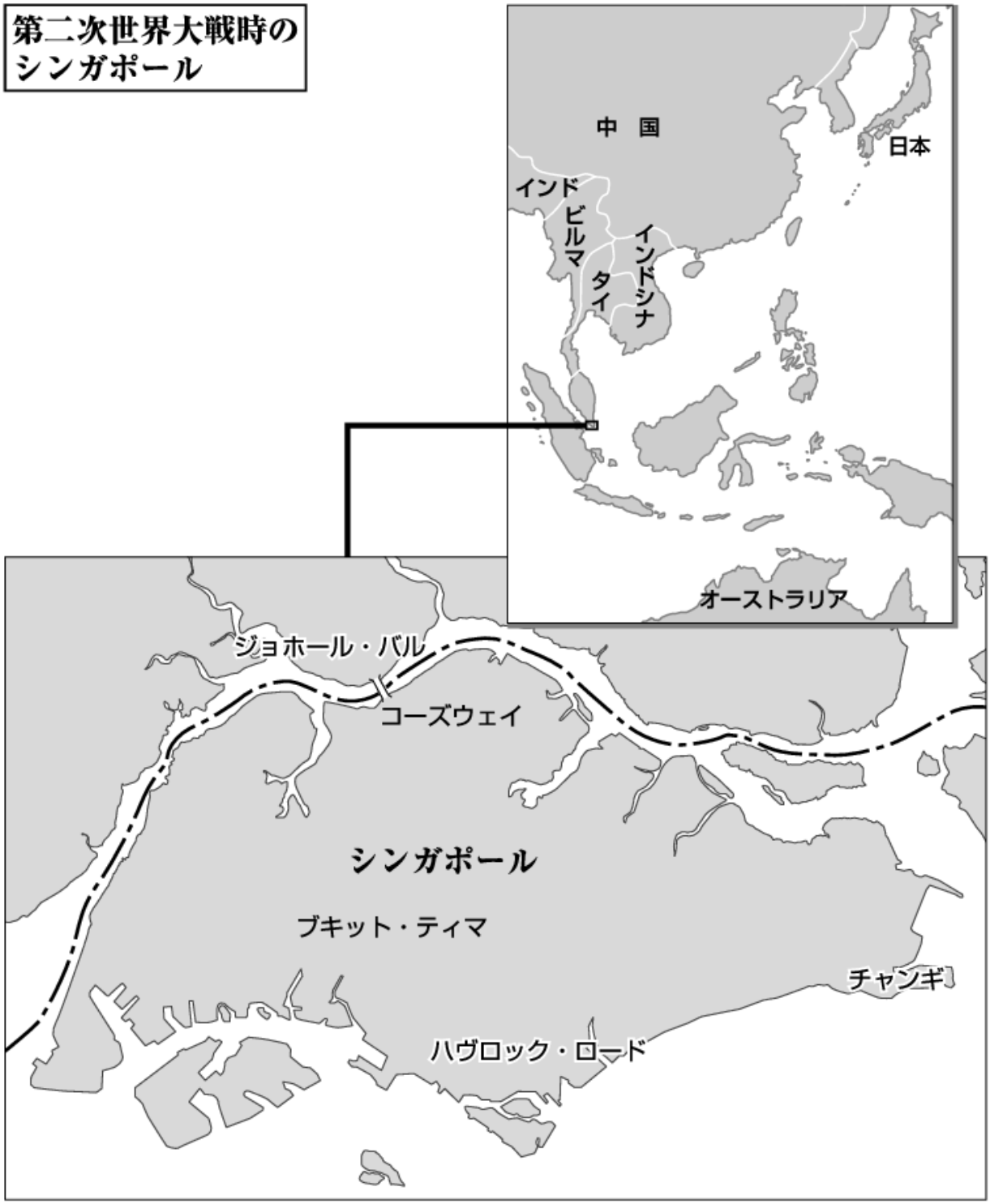
Working party	Number
Drivers	19
Mechanics	11
Others	45
	75

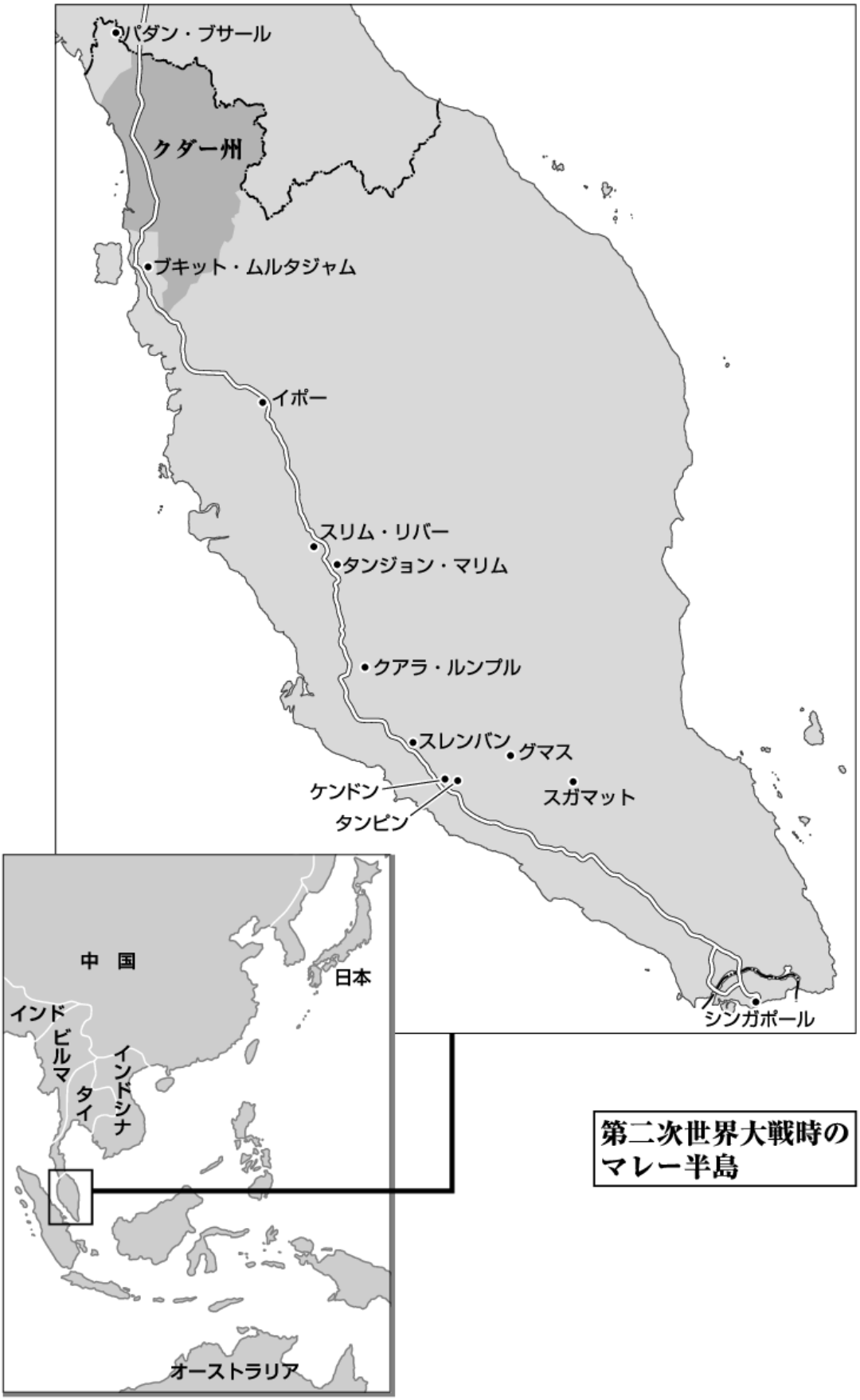
Date 17.9.30

Hours:

from 9.00 to 18.00

捕虜たちの労働グループのリスト。
ハヴロック・ロード、１９４２年。


第二次世界大戦時の
シンガポール
中国
日本
インド
ビルマ
タイ
インドシナ
オーストラリア
ジョホール・バル
コーズウェイ
シンガポール
ブキット・ティマ
チャンギ
ハヴロック・ロード



第二次世界大戦時のマレー半島

泰緬鉄道
中国
日本
インド
ビルマ
インドシナ
タイ
オーストラリア
ビルマ
ラングーン
モールメイン
タンビュザヤ
三仏塔峠
イェー
コンコイター
タイ
メークローン川
ヒントク
カンユー
クウェーノーイ川
チュンカイ
カーンチャナブリー
ナコーンパトム
ターサオ
ワンポー
バンコク
ノーンプラードゥク
バーンポーン
アンダマン海
テナセリム
シャム湾
ビルマ
チュンポーン
クラ地峡
泰緬鉄道
既存の鉄道

著者紹介

ジャック・チョーカー
Jack Bridger Chalker
(1918 – 2014)

チョーカーは、第一次世界大戦の休戦協定が締結される１ヶ月前の1918年10月、英国のロンドンで生まれた。日本の美術に関心を持つ英国人一家に育った彼は、第二次世界大戦ではアジア戦線に従軍し、日本軍の捕虜として収容所で記録画と手記を極秘裏に残す。

戦後、ロンドンの王立美術学校の絵画学部に復学。卒業後、王立芸術家協会の会員に選出され、その後、チェルトナム女学校美術部長、ファルマス美術デザイン学校長、西イングランド美術学校ブリストル校長、同校美術学部長などの職を歴任。グレート・ブリテン医療画家協会フェロー。2014年没。

著書に『Burma Railway』(Mercer Books)、『Images as a Japanese Prisoner of War』(Friends of Jack Chalker) など。

小菅信子
Nobuko Kosuge

１９６０年生まれ。上智大学大学院文学研究科史学専攻博士課程修了満期退学、ケンブリッジ大学国際研究センター客員研究員を経て、山梨学院大学法学部教授。近現代史、国際関係論、和解研究。

著書に『放射能とナショナリズム』（2014 年、彩流社）、『戦争と和解の日英関係史』（H. ドブソンと共編著、2011 年、法政大学出版局）、『ポピーと桜――日英和解を紡ぎなおす』（ 2008 年、岩波書店）、『戦後和解』（2005 年、中公新書、石橋湛山賞）など。

編集・レイアウト・ファイル作成: いけだよしこ